

2024 年度事業報告書

(1) 第12回 高校生英語パラメンタリーディベート連盟 新緑杯 全国大会 HPDU Spring Greenery Competition Championship 2023

主催：一般社団法人 日本高校生パラメンタリーディベート連盟

後援：公益財団法人 日本英語検定協会、一般社団法人 日本英語交流連盟

協賛：有限責任 あずさ監査法人

協力：iae グローバルジャパン株式会社、エイムネクスト株式会社、株式会社オールアバウト、株式会社トモノカイ

日時：2023 年 7 月 30 日（日）9：00～13：00

場所：オンライン Zoom、LINE にて実施

主旨：（1）パラメンタリーディベートを通して高校生の総合的英語運用能力を伸ばす。

（2）経験者が新人ディベーターを育成する機会の提供。

（3）様々な社会問題に興味関心を持つ態度を養う。

参加校：新緑杯東日本大会および西日本大会で上位 2 チームに入ったチーム

チーム構成：（1）1 チームの登録人数は 3 人で、1 校につき 3 チームまで登録が可能。各チーム 内には必ず新人ディベーターが 1 人は含まれていることが必要。新人ディベーターとは、1 年生、またはパラメンタリーディベートの公式大会（＝要項が 存在し、複数の高校が参加でき、賞の授与がある大会）に参加したことがない 2、3 年生を指す。（2）同一校の生徒でのチーム参加。

試合形式：ノースアメリカンスタイル、1 チーム 3 名、準備時間は 20 分、4 試合

日程：9：00～9：15 受付・開会式

9：15～10：45 準決勝 論題発表、準備（20 分間）、試合

11：10～11：20 準決勝 結果発表

11：20～12：50 決勝、3 位決定戦 論題発表、準備（20 分間）、試合

12：50～13：00 表彰式・閉会式

Motions(論題)：

準決勝：

This house believes that prisoners should be given the right to vote in national elections.

決勝・3 位決定戦：

This house believes that, assuming compliance, we should globally cap military spending to 1% of GDP.

試合結果：第 1 位 浅野高等学校、第 2 位 福井県立藤島高等学校、第 3 位 神戸大学附属中等教育学校、第 4 位 さいたま市立浦和高等学校

招待ジャッジ：藤川大輔、大賀哲、大村圭史、江口花音、市岡彪吾、綾部功

(2) 模擬 G7 サミット 2024 ～食品ロス。今中高生の私たちが提案できること～ Model G7 Summit 2024 Food Loss～

グローバル社会で活躍できる人材の育成を目的として発足した HPDU では、パラメンタリーディベートで身につけた力は必ず将来の役に立つということを、もっと高校生たちに実感してもらいたいと考え、毎年、模擬 G7 Summit（高校生による模擬 G7 サミット/日本ユニセフ協会に後援）を開催している。

共同主催：一般社団法人 日本高校生パラメンタリーディベート連盟、学校法人 渋谷教育学園渋谷中学高

等学校

後援：（公財）日本ユニセフ協会、Knovva Academy

協力：有限責任 あずさ監査法人、iae グローバルジャパン株式会社、株式会社トモノカイ、エイムネクスト株式会社、株式会社オールアバウト

趣旨：①グローバルリーダーにとって必要なスキルを育成するための実践練習の場を提供する。

②高校生の社会貢献活動や社会参画についての意識を高めるとともに、企画・運営力を育成する。

③様々なバックグラウンドを持つ中高生が同じ社会問題に対して向き合い、具体的な解決案を共有することで、各人が自らの学校やコミュニティで行動を起こす動機付けとする。

内容：議題を「食品ロスの問題に関して中高生が提示する解決策とは何か」とし、具体的には、環境についての教育が行われていないために持続的な活動が行われないことを問題として提示する。誰もが自覚を持って環境問題に取り組む社会を作るために、教育や学校においてどのような工夫ができるのか。また、中高生である自分たちが、問題解決に向けてどのようなアクションを起こせるのかを考える。

日時：2023年8月17日（木）9:30~16:00（JST, GMT +9）

場所：オンライン（Zoom, SLACK を使用）

参加条件：中学生または高校生であること

参加費用：無料

当日のスケジュール：

9:30 受付（Zoom での入室開始）

10:00 開会の辞 オープニングスピーチ：Ms. Patricia Lozada（Head of Model G20 Summit）

10:20 運営によるプレゼンテーション

10:40 基調講演/Key note speech Ms. Amanda Victoria（ブラジルで環境教育プログラムを研究）

11:10 グループディスカッション・発表準備

12:00 昼食

12:40 各グループによる発表準備（Google スライドの作成など）

13:40 各グループによる発表・質疑応答

15:15 振り返り

15:35 審査発表

16:00 解散

参加校：21校 56名

市川学園、江戸川女子中学校・江戸川女子高等学校、桜蔭中学校、大妻中野中学校、埼玉県立大宮高等学校、東京都立国際高等学校、渋谷区立上原中学校、渋谷教育学園渋谷中学校、渋谷教育学園幕張中学校、城北学園城北中学校・高等学校、鹿児島県立鶴丸高等学校、市川中学校、浜松開誠館中学校高等学校、東京都立日比谷高等学校、広尾学園高等学校、三田国際学園中学校、都立両国高等学校、Nguyen Nghiem Secondary School（ベトナム）、CEFET - MG / Campus VIII（Varginha）（ブラジル）、Beijing National Day School（中国）、Vinschool Time City T36（ベトナム）

運営委員：谷田そよ、吉村美咲、釘宮明日香（以上3名渋谷教育学園渋谷高等学校2年）

ファシリテーター：富田夏妃、川俣こころ、坂本留梨子、柴田瑚子、長田はるか、野中杏奈、佐藤笑理、藤田暁碧（以上8名 渋谷教育学園渋谷中学高等学校）

ゲスト：Ms. Navila Tabassum（バングラデシュ出身の横浜国立大学修士課程3年生 キーノートプレゼンテーション、参加者プレゼン審査）、中村円香（株式会社トモノカイ 参加者プレゼン審査）

受賞者：Place Action Award 第1位 Arron Miwa、Mirei Ella、Shotaro Yamamoto、Noa Sakabe

第2位 Yukina Nishida、Kayla Landerman、Otoka Yoshidome、Karen Katayama、Miku Yamamoto

Audience Award Arron Miwa、Mirei Ella、Shotaro Yamamoto、Noa Sakabe

Presentation Award Haruna Gatayama、Sarah Imoto、Elena Hayashi、Kento Yanase、Hana Yamamoto

【事後アンケートより】

・It was very enjoyable, and I hope to join next year too! ・I was able to connect with people from different nationalities so it was very interesting. Thank you all for this experience. I enjoyed it a lot. ・I wanted to be able to think and express my opinion about the problems facing society like the other students. I want to do it again!! Thank you for having a wonderful event. ・It provides me with a good opportunity to share my opinion with people around the world. ・The event was great. The facilitators were well trained, and everyone inspired me a lot. Thank you so much for holding this great event ・It was awesome. This was my first time to join these kinds of discussion events, but it was really fun to discuss world problems with people from all over the world. Also, I could find some interesting ideas and opinions. I was really excited!! ・It was overall very interesting. I had a fun time talking with my group members and I look forward to participating in it in the future. Thank you to the organizing committee for running such a great event. If I had an opportunity, I would also like to participate again next year. ・I am so thankful for this experience and opportunity and I loved getting a chance to meet people outside of my school. It was great having a chance to look deep into a world issue while discussing with other members. Thank you!! ・It was a great experience for me. I have never experienced this kind of event, so I was so nervous at first. However the facilitator and member of our team was capable and I can enjoy discussion. Thank you for holding this event. ・It was great and an awesome opportunity to meet new people and learn about the topic ・I felt that my English and presentation skills were not up to par, so that gave me motivation for future study. I was happy to be able to interact with smart students from other schools. Thank you for holding such a wonderful event!! ・It was a great opportunity to exchange ideas with other teens.

(3) SOLA Cup 2023 中高生パーラメンタリーディベート国際大会

SOLA Cup 2023 High School International Debate Tournament

共同主催：一般社団法人 日本高校生パーラメンタリーディベート連盟、学校法人 渋谷教育学園渋谷中学高等学校

協力：有限責任 あずさ監査法人、iae グローバルジャパン株式会社、株式会社 トモノカイ、エიმネクスト株式会社、株式会社オールアバウト

趣旨：(1)全世界の高校生に、即興型であるパーラメンタリーディベートの試合を行う機会を提供することにより、グローバル社会で活躍するのに必要とされる英語による論理的発信能力、問題発見解決能力、クリティカル・シンキング、コラボレーション力、グローバル課題や時事問題についての基礎知識、そして緩急やジェスチャー、ユーモアなどを意識した聞き手目線の分かりやすいパブリック・スピーチ力を身につける意義を伝える。

(2)他国のディベーターとの交流の機会となる他、日本の中高生のスピーチ力が他国の生徒との対戦で通用するのか、実力を試す機会とする。

(3)国際大会で度々活躍されてきたジャッジから質の高いフィードバックを受け、日本の高校生がグローバルスタンダードを知る機会とする。

日時・場所：

1) 予選大会 2023 年 8 月 13 日 (土) 8:30~18:00・オンライン (Zoom を使用)

2) 決勝トーナメント 2023 年 8 月 17 日 (日) 8:30~18:30・オンライン (Zoom を使用)

内容: World School's Debating Championships (WSDC) Style (8分、8分、8分、8分、8分、8分、4分、4分。但し、予選は本大会用に修正を加え、5分、5分、5分、5分、5分、5分、3分、3分とした) による英語ディベート大会。

チームの人数は 3 ~ 5 名(試合に出場するのは 3 人だが、試合ごとに選手入替可能)。予選 4 試合(2、3、4 試合目はパワーペアリング)。各チームの勝ち数と得点ポイントで、上位 8 チームを決め、決勝トーナメント。

参加資格: 世界中の中学・高校に在学している中学 1 年生から高校 3 年生までの生徒。チームに少なくとも 1 人がパラメンタリーディベート大会 (HPDU, WSDC, Asian, BP, NA, etc.) の出場経験があること。

また、その生徒は全ラウンドに出場すること。同一校・同一公式団体から最大 1 チームの参加とする。ただし、海外からの参加者は、この条件でチームを構成することが難しい場合、ジョイントも認めることとする。

参加費: 無料

タイムテーブル:

第 1 日目 予選大会 Preliminary Rounds

- 8:15 点呼
- 8:45 ブリーフィング
- 9:10 第 1 試合 対戦表・論題発表 (準備時間 30 分)
- 9:40 第 1 試合 (約 50 分)
- 10:30 ジャッジによる勝敗の説明 (20 分)
- 10:50 第 2 試合 対戦表・論題発表 (準備時間 30 分)
- 11:30 第 2 試合 (約 50 分)
- 12:20 ジャッジによる勝敗の説明 (20 分)
- 12:40 休憩
- 13:10 第 3 試合 対戦表・論題発表 (準備時間 30 分)
- 13:50 第 3 試合 (約 50 分)
- 14:40 ジャッジによる勝敗の説明 (20 分)
- 15:00 第 4 試合 対戦表・論題発表 (準備時間 30 分)
- 15:40 第 4 試合 (約 50 分)
- 16:30 ジャッジによる勝敗の説明 (20 分)
- 17:35 結果発表
- 18:00 解散

第 2 日目 決勝トーナメント Break Rounds

- 8:15 点呼
- 8:45 ブリーフィング
- 9:10 準々決勝 対戦表・論題発表 (準備時間 30 分)
- 9:50 準々決勝 (約 70 分)

1 1 : 0 0 ジャッジによる勝敗の説明 (20 分)
 1 1 : 2 0 準決勝 対戦表・論題発表 (準備時間 30 分)
 1 2 : 0 0 準決勝 (約 70 分)
 1 3 : 1 0 ジャッジによる勝敗の説明 (20 分)
 1 3 : 3 0 休憩
 1 4 : 0 0 決勝 対戦表・論題発表 (準備時間 30 分)
 1 4 : 4 0 決勝 (約 70 分)
 1 8 : 0 0 結果発表
 1 8 : 3 0 解散

参加校 : 6 カ国、49 校 (国内 22 校、海外 28 校)、1 8 1 名

日本 渋谷教育幕張高等学校、さいたま市立浦和高等学校、清真学園高等学校・中学校、南山高等学校・中学校
 女子部、神戸大学附属中等教育学校、洗足学園中学高等学校、東洋英和女学院中学部・高等部、甲府西高等学
 学校、徳島県立城ノ内中等教育学校、栃木県立宇都宮東高等学校、攻玉社高等学校、神戸市立葺合高等学
 校、藤枝明誠高等学校、神奈川県立湘南高等学校、さいたま市立浦和高等学校、筑波大学附属駒場中・高等
 学校、三田国際学園中学校、徳島県立徳島北高等学校、渋谷教育学園渋谷中学高等学校、日立第一高等学
 校、聖光学院、鶴丸高等学校

マレーシア SMK Lutong、Catholic High School

ベトナム Highschool for the Gifted - VNU HCM、Vinschool Golden River、British International School of Hanoi、Van
 Canh Secondary School、Phạm Thùy Gia Bảo、Nguyễn Tri Phương Secondary School、Dai Nghia secondary School
 (in Tran Dai Nghia High School for the Gifted)、Vinh pedagogical practice School、Tiểu học và Trung học cơ sở Tân
 Việt、Hưng Yên Viet Nam、Dang Thai Mai Secondary School、Debate 4 Teen、Đặng Chánh Kỳ lower secondary school、
 Horizon International Bilingual School - HCMC Campus、Pacific Primary and High School、Vinschool Imperia
 Haiphong、Le Phuoc Thien、Trung Vương Primary school、Doan Thi Diem Secondary School、Dich Vong Secondary
 School、Vinschool Central Park、Mtec English Center、Nguyen Nghiem Secondary School

フィリピン Goa Science High School、Quezon Science High School

インドネシア Islamic Senior High School of 2 Model Pekanbaru

中国 Dengzhou Zhiyuan practical school

Motions (論題) :

予選 Round 1 This house believes that commercial feminism has done more harm than good.

「本院は、商業フェミニズムは悪影響よりも好影響を及ぼしたと考える。」

予選 Round 2 This house supports the rise of art produced by artificial intelligence.

「本院は、AI によって作成された芸術作品の普及を支持する。」

予選 Round 3 This house believes that in countries with social healthcare systems, the
 government should not cover medical expenses for individuals who do not take preventive
 measures to take care of their own health.

「本院は、社会医療制度のある国では、健康状態を維持するための予防措置を取らない個人の医療費は
 政府が負担すべきでないと考える。」

予選 Round 4 This house supports the shaming of individuals as a tactic for the environmental
 movement to catalyze change.

「本院は、環境保護運動の一環として環境に変化を及ぼすための戦術として個人を辱めることを支持す

る。」

準々決勝 This house believes that immigrants should assimilate in the culture of their host country even at the expense of losing their original culture.

「本院は、移民は自国の文化を失うことを犠牲にしても、受け入れ国の文化に同化すべきだと考える。」

準決勝 This house supports the rise of online schooling.

「本院は、オンラインスクールの普及を支持する。」

決勝 This house supports the live-streaming of war.

「本院は、戦争のライブストリーミングを支持する。」

予選大会結果：1位：渋谷教育学園幕張高等学校、2位：Nguyễn Tri Phương Secondary School、3位：聖光学院、4位：渋谷教育学園渋谷中学高等学校、5位：東洋英和女学院中学部・高等部、6位：Dengzhou Zhiyuan practical school、7位：洗足学園中学高等学校、8位：Quezon Science High School
ベストスピーカー：Riko Hirose（東洋英和女学院中学部・高等部）、Lizzy Kong（Dengzhou Zhiyuan practical school）

決勝大会結果：優勝：渋谷教育学園幕張高等学校、準優勝：聖光学院、3位：渋谷教育学園渋谷中学高等学校、洗足学園中学高等学校、5位：Nguyễn Tri Phương Secondary School、東洋英和女学院中学部・高等部 Dengzhou Zhiyuan practical school、Quezon Science High School

ジャッジ（審査員）：パーラメンタリーディベート経験豊富な社会人、大学生、高校生がジャッジとして参加した。予選大会では各ディベートに対し1・2人のジャッジが審査を行い、予選の各ラウンド及び準々決勝、準決勝の終了後にはジャッジが口頭で試合の勝敗とその理由を説明した。準々決勝では各ディベートに3人、準決勝では5人、決勝では7人のジャッジが審査を行った。

ジャッジリスト：

1. Tomoyuki Suda (Japan) (Invited Adjudicator of Sola Cup 2021)
2. Esther Olamide Olayinka (Nigeria) (Champion of Kampala Open 2023, Open Final and 2nd Overall Best Judge at World Novice Debating Championship 2023, Invited, Adjudicator of Tokyo IV 2023, Invited Adjudicator at Manchester Schools 2023, Invited Adjudicator at Western Winter HST 2023, Open Finalist and 16th ESL Speaker at Hadzabe Pre WUDC 2022, Invited Adjudicator at 46th Mindanao Parliamentary Debate Competition 2023, Invited Adjudicator at Sola Cup 2022, Finalist and 3rd Best Speaker at International, Women's Day Open 2022, Invited Adjudicator at Intertext Pre WSDC 2023)
3. Dominic Stanley-Marcus (Nigeria)
4. Ayodele Bolaji (Nigeria) (Japan SOLA Cup 2022 - WSDC - 18 rooms - chaired 3/4 inrounds - open finals panelist, Ignite 1.0 - 2023 - BP - 22 rooms - chaired 2/5 inrounds - open finals panelist - overall second best judge, Guangdong Debate Challenge - 2023 - BP - 27 rooms - chaired 5/5 inrounds - novice semi finals panelist, Dempsey Cronin Memorial Invitational - 2023 - LD, PF, Speech - SPAR Finals Judge.)
5. Matthew Godslove (Nigeria) (2022 - Uyo City Open - BP - 20 teams - Best Novice speaker, Novice Champion, 2022 Port Harcourt City Open - BP - 40 teams - Novice Champion, 2022 - Zadek 2.0 - BP - 80 teams - Open Semi-finalist, 2022 - Word War V - BP - 30 teams - 14th best speaker, 2022 - Pre PH Open - BP - 60 teams - Open Semi Finalist, 2023 - International Bilingual School of Central Taiwan Debate Open - AP - 19 teams - chaired two preliminary rounds, judged Grand Finale, 2022 - Hong Kong Senior Schools Debating Championship - WSDC

- 28 teams - Judged quarter-finals, was scheduled for semi-finals but I missed it due to network issues which is why I could not judge finals, 2022 - Intertext Sarawak Debate Open - BP - 20 teams - Breaking Adjudicator, chaired all prelims, judged Grand Finale, 2022 - Malaysian British Parliamentary - BP - 60 teams - Chaired All prelims, judged Grand Finale, 2022 - Sola Cup - WSDC - about 50 teams - chaired two preliminary rounds and judged Open Semi-finals, 2022 - BP Provincial - BP - more than 40 teams - Breaking adjudicator, 2022 - Intertext Novice BP - more than 30 teams - Breaking adjudicator.)

6. Simran Nischal (India) (Second Best Adjudicator/ Intertext Parliamentary Debate 2023/ APD / OSF Chair and OGF Panel/ 40 teams, Second Best Adjudicator/ OSF Chair & OGF Judge /SBS BPD 2023/ 40 teams, Invited Adjudicator & OSF Chair// SOLA Japanese CUP 2022//APD//36 teams, Second Best Adjudicator Prize//OGF Judge and NF Chair// Jus Loqui 2022// APD/50 teams, OGF Judge/ Royal Rhetoric Anniversary Cup 2023/ BPD / 64 teams, OGF, NF Judge and Subsidized Adj/ JRKT PD 2023/ APD, OGF, OSF and Invited Adjudicator/ AXIOM 23 / APD/ 30 teams, Adjudicator// The Jaipur Debate 2022//APD//40 teams// Out-rounds Chair, Quarter Finals Judge // Canada University International Debate CUSID 2022/70 teams/BPD, OQF Judge// LSR PD 2022 // APD//36 teams, OSF and Invited Adjudicator/ KK Birla Debate 2022/ APD, OSF and Invited Adjudicator/ CBS PD 2023/ APD /38 teams, Subsidized and NSF Adjudicator/ Ehsaas PD 2023/ APD/ 44 teams, Invited and OPQ Adj / 8th Linkbate Debate Championship 2023/ BPD / 80 teams, Subsidized and NF,NSF Judge/ Polemic 2023/ APD/ 36 teams, Adjudicator/ ASDC 2023/APD/ 102 teams, Invited Adjudicator/ SLS Nagpur Australs/ 38 teams, Adjudicator/ LSR PD 23 / APD / 36 teams / 4/5 inrounds chaired, Invited Adjudicator/ Frankenstein 2023 / WSDC, Subsidized Adjudicator/ BITS PD / BPD / 100teams / 5/5 inrounds chaired, Invited Adjudicator/ CVS Mukhtalif 23, Subsidized Adjudicator/ ILNU BPD 2023, Subsidized Adjudicator/ Ikhtilaf APD 2023, Subsidized Adjudicator/ MLNC APD 2023, Subsidized Adjudicator/ DTU Summers 2023)
7. Owolabi Victor Oluwatobi (Nigeria) (CA, South East Asia Kay San Cup, 2022, BP, Chaired 4/5 rounds, Grand Finals judge, CA, Arcade Eliminations, 2022, BP, Chaired all rounds, Grand finals judge, Southern Africa Universities Debate Championship (SAUDC), 2022, BP, 20+ rooms, chaired 5/7 preliminary rounds, quarterfinal Panelist, Invited adjudicator, 8th Shanghai International Debate Open (SIDO), BP, 40+ rooms, Semifinals judge, invited adjudicator, Hadzabe Pre-WUDC, 2022, BP, 15+ rooms, Chaired 4/5 preliminary rounds, Semifinal Judge, invited adjudicator, Asia world schools, 2022, WSDC, 35+ rooms, Chaired 4/4 preliminary rounds, Quarterfinal Judge, Invited adjudicator, WORLD schools debate open (WSDO), 2022, WSDC, 30+ rooms, chaired 4/4 rounds, grand final Panelist, Invited adjudicator, Meadowridge School Debate Tournament (MSDT), 2022, CNDF, 35+ rooms, Chaired 5/5 rounds, grand finals judge, 10th best adjudicator, invited adjudicator, 7th Mindanao Intervarsity, 2022, BP, 25+ rooms, Chaired 5/5 preliminary rounds, novice finals judge, Invited adjudicator, FLTRP Debate Challenge, 2022, PF, 15+ rooms, Chaired 4/4 preliminary rounds, Open Finals chair, invited adjudicator.)
8. Olamilekan Oderanti (Nigeria) (3rd best judge and Octo-finals Panelist, chaired 4/4 prelims. Asia World Schools Debate Open (AWSDO), July, 2022 (online), Asian Parliamentary. 33 rooms, Breaking adjudicator, NSF Panelist, chaired 2/5 rounds (9th best adjudicator),

Dr. Rajendra Prasad Memorial Parliamentary Debate (RPM) Pre-UADC 2022 (29 rooms) Asian Parliamentary, breaking judge, chaired 4/5 preliminary rounds, SFU novice world champions 2022, Asian Parliamentary style (online), 2022. (26 rooms), DIALETIX Pro-Am 2022 (online) Finals and semi-finals Chair, best judge. British parliamentary. (11 rooms), Breaking judge, chaired 2/5 preliminary rounds, Hadzabe Pre-WUDC, BP format, 10 rooms, online tournament (9-10 July 2020), Finals wing and Quarter finals chair, Chaired 3/5 prelims, London juniors debating cup (16 rooms) BP style, Breaking Judge, chaired 2/7 prelims. South Africa Universities Debate Championships (SAUDC) Bp style (17 rooms), 5th best judge, finals and semi-finals wing, Chaired 3/5 prelims, Immortals Legend reborn 2022, BP style (11 rooms). , Semi finals Panelist, Canadian university society for intercollegiate debating (CUSID) High School Tournament (HST), BP format (17 rooms), Semifinals wing, Mediterranean Schools Debating Championship (MSDC), WSDC format, 2022 (8 rooms))

9. Ayodele Samuel (Nigeria) (Joint Best Adjudicator, Japan SOLA Cup 2022, Open Semifinals Adjudicator, 37th Annual Stanford Invitational 2023, Invited Adjudicator & Schools Octofinals Chair, 9th Oldham Cup 2023, Invited Adjudicator & Open Semifinals Judge, 8th Shanghai International Debate Open 2022, Invited Adjudicator & Open Quarterfinals Panelist, Tokyo InterVarsity 2023, Invited Adjudicator & Grand Finals Panelist, SSE Baltic Open 2023, Invited Adjudicator & Grand Finals Panelist, Oxford Schools 2023, Invited Adjudicator & Silver Grand Finals Panelist, Tournament of Champions WSDC Asia 2023, Invited Adjudicator & Grand Finals Panelist, South African National Schools Debating Championship 2021, Invited Adjudicator & Grand Finals Panelist, Hong Kong World Schools Debating Championship 2021, Open Finalist & Top 10 Speaker, All Nigeria Universities Debating Championships 2021 & 2022, Open Octofinalist, Uhuru Worlds 2022, Octofinalist, Pan African Universities Debating Championship 2020, Open Semifinalist & 2nd Best Speaker, Kinnaird College Debating Championships 2022, Open Semifinalist, Africa IV 2023)
10. Esther Ayodele (Nigeria) (Invited Adjudicator of Asian Scholastic Debating Championships 2023, ASDC, 4/4 inrounds chaired, Finals Panelist, Invited Adjudicator of Dempsey – Cronin Tournament 2023 5/5 inrounds chaired Finals Chair)
11. Austin Kelachukwu (Nigeria) (Canadian University Society For Intercollegiate Debate (CUSID), 2022, BP, 70+ teams, Quarter Finals Panelist, Invited Adjudicator, All Nigerian University Debate Competition, (ANUDC), 2022, BP, 64+ teams, Grand Finals Panelist. Best New Judge, Meadowridge School Debate Tournament (MSDT), 2022, 35+ rooms, Chaired 5/5 rounds, Grand Finals Panelist, 3rd Best Judge, Invited Adjudicator, Zimbabwe Easters Open, 2022, BP, 70+ teams, Chaired 4/5 rounds, Quarter Finals Panelist, Top 10 Best Judges, African Iron Giant, 2022, BP, 80+ teams, Chaired 5/5 rounds, Grand Finals Panelist, 3rd Best Judge, Japan SOLA CUP, 2022, WSDC, 18 rooms, Chaired 3/4 rounds, Quarter Finals Panelist. Invited Adjudicator, Nigerian Debate Community Open, 2022, BP, 36+ teams, Semifinals Panelist, 5th Best Judge, Immortals Debate Open, 2022, BP, 40+ teams, Chaired 2/5 rounds, Semifinals Panelist, 3rd Best Judge, Bay Area Falls Champ, Winter Invitational, 2022, 60+ teams, Chaired 4/5 rounds, Grand Finals Panelist, Intertext Scholastic Debate Open, 2023, AP, 19 rooms, Chaired 4/4 rounds, Grand Finals Panelist, 6th Best Judge, Invited Adjudicator,

Intertext Pre-WSDC, 2023, WSDC, 24 rooms, Open Quarter Final Panelist, Invited Adjudicator.)

12. Wong E Jeh (Singapore) (Quarterfinalist and 2nd Best Speaker in Singapore Secondary Schools Debating Championship 2023; 5th Best Judge in SOLA Cup 2022)
13. Mizuki Ikeda (Japan) (第9回 HPDU 新緑杯 4 位、PDWC 高校生パラメンタリーディベート世界交流大会優勝、Tsukukoma Schools Open 2021 ベスト 4、第四回日本中学生パラメンタリーディベート大会ジャッジ、第五回日本中学生パラメンタリーディベート大会ジャッジ)
14. Melvin Lai (Japan) (NSDA accredited judge, PF, WSDC, JWSDC, WSC, HPDU Chiba, invited judge for HPDU Tokyo, HPDU grand final, Henda Chiba, Henda nationals)
15. Mizuki Kitada (Japan) (Sophomon Cup 2023 CAP、BP Novice West 2021 DCA & 決勝チエア)
16. Erin Suzuki (Japan) (Breaking Judge at AWSDC, JWSDC)
17. Toru Oga (Japan) (- Uhuru Worlds 2023, BP, 260 teams, chaired 5/5 inrounds, broke, panelled Open QF - SIDO 2022, 120 teams, BP, chaired 5/5 inrounds, broke, panelled Open QF - Imperial IV 2022, BP, 100 teams, chaired 5/5 inrounds, panelled Open QF - Ukraine Charity Open 2022, BP, 52 teams, chaired 1/4 inrounds, panelled GF - Uhuru Worlds 2022, BP, 300 teams, chaired 7/7 inrounds, panelled ESL QF)
18. Tammie Huynh (Vietnam) (1st Reserved Break SPKDO 2021 (VIET - WSDC), Champions Spring Debate Tournament (VIET - AP), 10th Best Speaker GiaDinh Debate Tournament 2022 (VIET - WSDC), Quarterfinalist - Breaking 5th Lama Debate Open 2022 (VIET - WSDC), Top 32 Truong Teen 2022 (VIET), Quarterfinalist - Breaking 5th CYDT 2023 (VIET - WSDC), Semifinalist The Debate Challenge 2023 (VIET - WSDC), Champion, Top 3 Best Speaker, Breaking 2nd Southern Vietnam British Parliamentary Debate Academy (ENG - BP), Semifinalist, Top 9 Best Speaker Saigon Debating Championship 2023(ENG - WSDC))
19. Gin Nguyen (Vietnam) (Top 3 Best Adjudicators |Asia World Schools 2022 (AP), Top 3 Best Adjudicators |FPT Debate Open 2022 (WSDC), Top 3 Best Adjudicators |Me For Us 2022 (AP), Invited Adjudicator| Top 3 Best Adjudicators | SOLA CUP 2022 (WSDC), Invited Adjudicator| Top 3 Best Adjudicators | Lama Debate Open 2022 (WSDC), Breaking Adjudicator| Asia Online Debate Championship 2023 (WSDC), Breaking Adjudicator| Vietnam University Debate Championship 2022 (AP), Invited Adjudicator| Top 4 Best Adjudicator| Prudentia - Ha Long Debate Minitournament 2023 (WSDC), Invited Adjudicator| Top 5 Best Adjudicators | The Debate Challenge 2022 (WSDC), Invited Adjudicator| Top 5 Best Adjudicators | Gia Dinh Debate Tournament 2022 (WSDC), Invited Adjudicator| Top 5 Best Adjudicators | CBN Youth Debate Tournament 2022 (WSDC), Breaking Adjudicator| Swinburne Debate Tournament 2022 (AP)| Beu Debate Championship 2022 (AP)|Co-Operate Debate Tournament 2022(WSDC)| Can Tho Debate Open 2022 (WSDC)| Latrobe Debate Tournament 2023 (BP) | Southern Debate Open 2022 (WSDC)| SHY Online Debate Open 2022 (WSDC)| Cáo Mini Debate Tournament 2022(WSDC)| Galassia In-house Tournament 2022 (WSDC) |Panoramen Mini Tournament 2023 (WSDC)| Vietnam Youth Debate Tournament 2023 (WSDC) | Genderme Debate Open 2023 (WSDC)| Summer National Debate Open 2023(BP)| Can Tho Debate Open 2023 (WSDC), Invited Adjudicator| Evergreen Collective Debate Tournament 2023 (BP)| Taiwan Schools Debate Challenge 2022 (WSDC))
20. Ayan Adil (Pakistan) (Broke for (Semi Finals), Canada Cup, Broke for (Octos), 8th Linkbate, Broke for (Quarters) All Pakistan Debating Championship (U-17), Offical Team Pakistan

Adjudicator (Old Ham Cup) , Broke for (Quarter Finals) Shahjiwana UCL)

21. Reiko Iwai (Japan)

22. Vani Bhardwaj (India) (1) SA at DTU Summers Pre-UADC 2023, AP, 55 Rooms, Chaired 4/4 Inrounds, Grand Finals Chair, Best Adj, 2)SA at IITPD 2023, AP, 20+ Rooms, Chaired 2/5 Inrounds, Open Semis Panel, 2nd Best Adj, 3)SA at 3rd DTU PD 2023, BP, 15+ Rooms, Chaired 3/5 In Rounds, Open Semis Panel, 3rd Best Adj, 4)The IIT Bombay Debate 2022, BP,, 25+ Rooms, Chaired 3/4 In Rounds, Novice Finals Panel, 7th Best Adj, 5)SA at Linkbate Debating Championship 2023, BP, 25+ Rooms, Chaired 3/3 Inrounds, Open Quarters Panel)

23. Vivek Raj (India) (Intertext pro-ams debate open 2023, BPD, 2ND BEST ADJUDICATOR, OGF JUDGE Mumbai speech and debate league 2023 , WSDC, INVITED ADJUDICATOR, NSM PD, APD, NSF CHAIR, SRDFPD, APD, NF JUDGE, RAHAT PD, OQF CHAIR, OSF JUDGE)

24. Zivile Bandla (South Africa) (5th Overall Debater (2019, WSC), Top 50 Team (2019, WSC), adjudicated Inter-res debate (2022) (University of the Free State)

他 3名

ボランティア：運営委員14名、【合計】14名

HPDU 役員以外の運営委員：田野井鈴歌、中村香音、谷田そよ、後藤美虹、二井春香、鈴木来実、野中杏奈、宮澤昂佑、川俣こころ、柴田瑚子、家本結芽、藤田 暁碧、坂本留梨子、葛谷紗永

(4) 第6回 HPDU 中学生パラメンタリーディベート大会

HPDU Middle School Competition 2024

主催：一般社団法人 日本高校生パラメンタリーディベート連盟

協賛：有限責任 あずさ監査法人、iae グローバルジャパン株式会社、株式会社トモノカイ

協力：エイムネクスト株式会社

趣旨：

- 1) 全国の中学生に、即興型であるパラメンタリーディベートの試合を行う機会を提供することにより、グローバル社会で活躍するのに必要とされる英語による論理的発信能力、問題発見解決能力、クリティカル・シンキング、コラボレーション力、グローバル課題や時事問題についての基礎知識、そして緩急やジェスチャー、ユーモアなどを意識した聞き手目線の分かりやすいパブリック・スピーチ力を身につける意義を伝える。
- 2) 高校生の社会貢献活動や社会参画についての意識を高めるとともに、企画・運営力を育成する。また、ジャッジの役割を通して、自己のディベート力を向上させる。※高校生ジャッジは、18か月以上のパラメンタリーディベート経験があり、公正なジャッジと勝敗の説明・アドバイスが可能な者に限る。

日時：2024年2月23日(木) 9:00～17:00

場所：オンライン (Zoom、LINE) にて実施

参加費：1チーム 3000円、個人参加は1000円

参加資格：中学生(留学生、帰国生、外国籍の生徒も含む)。学校、個人での申し込み共に可能。学校単位で申し込む場合は1校につき2チームまで。チームの人数は3～5名(試合に出場するのは3人だが、試合ごとに選手入替可能)。人数が足りない場合は、運営側で他の個人申込者と組み合わせてチームを用意。

試合形式：短縮型ノースアメリカン・スタイル [4分、4分、4分、4分、3分、3分] (Constructive speech が4分で、Reply speech が3分)。論題発表から試合開始までの準備時間は20分間。4試合数4試合(2試合以降はパワーペアリング)。

参加校： 27校、42チーム、180名

南山中学校女子部、芝浦工業大学柏中学校、東洋英和女学院中学部、市川中学校、栃木県立宇都宮東高等学校附属中学校、渋谷教育学園渋谷中学校、茨城県立並木中等教育学校、東邦大学付属東邦中学校、聖光学院、翔凖中学校、清真学園高等学校・中学校、徳島県立城ノ内中等教育学校、攻玉社中学校、白百合学園中学高等学校、渋谷教育学園幕張中学校、三田国際学園中学校、洗足学園中学校、筑波大学附属駒場中学校、筑波大学附属中学校、東洋大学附属牛久中学校、東京都立小石川中等教育学校、東海中学校、獨協中学高等学校、栄光学園中学校、浅野中学校、神戸大学附属中等教育学校、江戸川女子中学校、広尾学園中学校

Motions(論題)：

Round 1: THBT customers' needs and desires should always come first

「本院は、客のニーズと要求を必ず優先すべきであると信じる。」

Round 2: THBT cram school culture does more harm than good for students

「本院は、塾の文化は生徒にとってメリットよりデメリットの方が多いと信じる。」

Round 3: THW ban all plastic products

「本院は、プラスチック商品を全て廃止する。」

Round 4: THBT parents should not say anything about their childrens' future job

「本院は、子供の将来の仕事に関して、親は何も言うべきでないと信じる。」

試合結果：優勝：聖光学院 A、準優勝：神戸大学附属中等教育学校 A、3位：渋谷教育学園幕張中学校 A

ベストスピーカー賞：1位：浦上尚子（神戸大学附属中等教育学校）2位：坂本留梨子（渋谷教育学園渋谷中学校）3位 香川 誠道（聖光学院）、泉 純成（聖光学院）

ボランティア：運営委員 11名、社会人 10名、高校生 16名【合計 37名】

高校生運営委員：田野井鈴歌、谷田そよ、荒井さちこ、中村香音、後藤美虹、吉村美咲、石原深生、岡田貴子、葛谷紗永、菅野紘子、二井春香（以上 11名 渋谷教育学園渋谷高校）

高校生ジャッジ：ヴェチェレック奏歩亜（三田国際学園）、石田幹太郎（聖光学院高校）、謝芸農（東洋大学附属牛久中学校・高等学校）、鈴木葉瑠子（神戸大学附属中等教育学校）、吉田敦勝（神戸大学附属中等教育学校）、坪田彩華（広尾学園高等学校）、佐藤廉（獨協高校）、佐藤優太（渋谷教育学園渋谷高等学校）、小諸璃乃（渋谷教育学園幕張高等学校）、鈴木英里（三田国際学園高等学校）、三宮礼（聖光学院高等学校）、吉永信美（神戸大学附属中等教育学校）、入田采子（N高等学校）、松浦茅南（神戸大学附属中等教育学校）、恵納質早（神戸大学附属中等教育学校）、森本晋（広尾学園高等学校）（以上 16名）

招待ジャッジ：鈴木エリン、ライ・メルビン、森田敢、宇佐美修、岩井玲子、須田智之、水谷友哉、久留宮一浩、吉田光太郎、宮川雪月花（以上 10名）

（5）日本高校生パラメンタリーディベート連盟四国九州オープン 2024

HPDU Shikoku Kyushu Open 2024

共同主催：日本高校生パラメンタリーディベート連盟九州 HPDU of Kyushu、日本高校生パラメンタリーディベート連盟四国 HPDU of Shikoku

共催：日本高校生パラメンタリーディベート連盟、九州大学アジアオセアニア研究教育機構文化変動クラスター

後援：国立大学法人九州大学、有限責任 あずさ監査法人、iae グローバルジャパン株式会社、株式会社トモノカイ、エイムネクスト株式会社、西日本シティ銀行、福岡日英協会、一般社団法人 日本英語交流連盟、一般社団法人 パラメンタリーディベート人財育成協会、特定非営利活動法人 全国教室ディベート連盟、

合同会社 WSC Japan

協賛：株式会社ベネッセコーポレーション Global Learning Center

協力：トビタテ！留学 Japan

趣旨：①四国・九州地区の高校生等が、パラメンタリーディベートを通して、英語によるコミュニケーション能力や論理的思考能力を向上させる機会を得ること、②参加する高校生等が、社会問題への高い関心・知識・知見、批判的思考のため の技能・態度、チームメートや対戦相手と協働・対話することなどの重要性を 学ぶこと、③参加校の教員等が、ジャッジやスタッフなど大会運営に参画する機会を通じて、ディベート活動の経験・ノウハウを共有し、持続的なディベート・コミュニティの形成に貢献すること、④四国・九州地区と他地区の生徒・教員等が、相互に交流する機会を得ること。

日時：2024 年 3 月 9 日（土）8：30～17：00・10 日（日） 8：30～17：30

場所：オンライン Zoom、LINE にて実施

大会進行：予選 4 ラウンド、本選はベスト 8 (Quarter Final) から

参加資格：日本国に所在する高等学校および中学校等（各種学校を含む）に在籍する生徒（留学生、帰国生徒、外国籍の生徒も含む）。

① 1 チーム 3 名。2 名での参加や 4 名以上で交代出場することは原則として認められない。チーム内における帰国子女、外国籍の生徒の人数制限はない。

② ジョイントでの参加（異なった学校の生徒同士でチームを組み出場すること）も可。

③ 英会話学校や英語学習プログラムを単位として複数の異なった学校の生徒同士がジョイントで申し込むことも可。その場合は、担当講師の方（事前、当日の連絡が可能な成人以上の方）が申し込む。

ノービス・カテゴリー：①または②の条件を満たすスピーカーで構成されるチーム。

①中学生、②高校生であり、かつディベート経験が 1 年未満の者（中学以前のディベート経験を含む）

※ノービス・スピーカー以外のすべてのスピーカーはオープン・スピーカーと呼称。

参加費：1 チーム 3,000 円。ジャッジ提供が難しい場合、参加 1 チームあたり 参加費 3,000 円または運営スタッフ 1 名提供。

試合形式：ノースアメリカン・スタイル短縮版 [5 分、5 分、5 分、5 分、4 分、4 分] (Constructive speech が 5 分で、Reply speech が 4 分)。論題発表から試合開始までの準備時間は 20 分間。予選 4 試合 (2 試合以降はパワーペアリング)、ブレイクラウンドは準々決勝から。

日程：

1 日目

8:30～9:00 開場

9:00～9:30 開会式 (Opening Ceremony)

9:40～11:10 ROUND 1

11:20～12:50 ROUND 2

12:50～13:30 昼食

13:30～15:00 ROUND 3

15:00～15:30 レクチャー

15:30～16:00 時間調整のための予備時間

16:00～16:50 スポンサー・レクチャー

16:50～17:00 クロージング

2 日目

8:30～9:00 開場

9:00～10:10 R4(サイレント)

10:10～10:40	スポンサー・レクチャー
10:40～11:10	時間調整のための予備時間
11:10～11:20	ブレイクアナウンスメント
11:30～12:40	準々決勝 (Quarter Final)
12:40～13:30	昼食 (Lunch / Issues & Focuses*)
13:40～15:10	準決勝 (Semi-Final / Issues & Focuses)
15:20～16:50	決勝 (Grand Final / Issues & Focuses)
16:50～17:10	レクチャー
17:10～17:30	閉会式 (Closing Ceremony)

参加校：27校、50チーム、150名

岩手県：岩手県立一関第一高等学校

茨城県：茨城県立竹園高等学校、清真学園高等学校・中学校

埼玉県：埼玉県立大宮高等学校

千葉県：翔凜高等学校

東京都：東京都立富士高等学校 (FESS)、筑波大学附属駒場高等学校

神奈川県：浅野高等学校、神奈川県立多摩高等学校、湘南白百合学園高等学校

福井県：福井県立藤島高校

長野県：長野県諏訪清陵高等学校、長野県長野高等学校

愛知県：愛知県立半田高等学校、南山高等学校・中学校女子部

京都府県：京都府立嵯峨野高校

兵庫県：神戸大学附属中等教育学校

広島県：広島県立尾道東高等学校

徳島県：徳島県立城ノ内中等教育学校

愛媛県：愛媛県立宇和島南中等教育学校

高知県：高知県立須崎総合高校

福岡県：福岡県立香住丘高等学校

熊本県：尚綱高等学校、熊本県立人吉高等学校、真和高校

鹿児島県：鹿児島中央高校、鹿児島育英館高等学校

ジョイント 1チーム

Motions(論題)：

Round 1: THBT parents should have the right to censor their children's SNS.

Round 2: THBT public engagement should be mandatory for scientific research of a certain scale. [Prepared Motion] Info: Public engagement means actively involving the general public in the decision-making process of advanced scientific research and technological development, promoting public understanding and participation through the sharing of information, dialogue, and cooperation. In this process, scientists, policymakers, and the general public aim to learn from each other and deepen their understanding, striving to ensure that science and technology align with societal values and needs. In the fast-evolving domains of science and technology, including genome editing, artificial intelligence, nanotechnology, nuclear and renewable energy, the involvement of the general public in scientific research is gaining attention. Currently, the Japanese government requests researchers receiving over 30 million yen in public funds annually

to implement public engagement (not mandatory).

Round 3 : In the initial phase following a disaster, THW ban all forms of volunteer support for the affected areas from the private sector, including both individuals and organizations.
*For the purpose of the debate, volunteer support does not include monetary donations and financial contributions. Info: Following the Noto Peninsula earthquake in January 2024, the local government of Ishikawa Prefecture appealed to the general public to refrain from volunteer activities, citing concerns that volunteer visits could cause traffic congestion, potentially hindering the transportation of supplies and relief efforts, as well as the risk of secondary disasters from aftershocks. A similar appeal was made by the Japanese government. On social media, there was widespread discussion advocating for the restraint of volunteers, with criticism directed at those who too readily visit the affected areas.

Round 4 : THBT animal rights activists should prioritize campaigning for improving conditions for farmed animals rather than eliminating animal products.

Quarter Final : During times of crisis, financial assistance from the government, does more harm than good. (This includes but is not limited to the “北陸応援割” and “GoTo Travel” in Japan; the Bayanihan Program in the Philippines, which provides subsidies to those affected by the COVID-19 pandemic; and the American Recovery and Reinvestment Act (ARRA) in the US, which is an economic stimulus package to provide financial help during the economic recession in 2008)

Semi Final: TH, as liberal democratic countries, opposes EBPM

Info: Evidence-Based Policy Making (EBPM) is an approach to policy formulation that relies on objective evidence, such as statistical data and scientific research, rather than specific case studies or experiences. This process emphasizes the efficient use of budgets, the optimization of implementation strategies, and the clarification of expected social outcomes. EBPM aims to enhance the effectiveness of policies, prevent the wasteful use of resources, and produce better social results.

Grand Final: THP a world in which individuals do not possess a desire to compete with one another.

試合結果 :

【Open カテゴリー】

優勝 : 浅野 (茂木夏希・松尾喜一・深尾龍伽)、

準優勝 : 筑駒 (黒田浩揮・ファスカ・インディゴ・風・長谷川佑一郎)

Semi-Finalist : 一関第一 A (佐藤志哉・高橋快治・平沢水妃)、南山女子 B (西海佐穂・藤岡美優・岡崎さほ)

Quarter Finalist : 神大附属 A (松浦茅南・恵納質早・吉永信美)、最弱戦士 (片岡穰・入田采子・鈴木優馬)、城ノ内 A (堤遥菜・古川萌々・長尾橙和)、大宮 A (柏原翔・森田渚花・中嶋桃子)

【Novice カテゴリー】

優勝 : 神大附属 D (浦上尚子・高橋颯介・田中愛梨)

準優勝 : 藤島 A (佐藤美侑・谷口愛・与保田悠人)

Semi-Finalist : 神大附属 F (野口菜々香・金光爽良・角田クロエ)、長野 (小森陽葉空・徳竹冬生・山口広翔)

【四国九州 カテゴリー】

優勝：鹿児島中央（山口咲楽・森田遥香・吉屋志保）

準優勝：城ノ内 C（櫛渕未来・岡田奈々・堤綾香）

Semi-Finalist：真和 A（永野真美・中野桃花・遠藤詩歩）、鹿児島育英館（権藤遥奈・原園琉生・徳永理咲）

スピーカープライズ

【Open カテゴリー】1. 西海佐穂（南山女子 B）2. ファスカ・インディゴ・風（筑駒）2. 茂木夏希（浅野）4. 浦上尚子（神大学附属 D）4. 片岡譲（最弱戦士）6. 入田綾子（最弱戦士）6. 藤岡美優（南山女子 B）8. 長谷川佑一郎（筑駒）8. 佐藤陽花（多摩）8. 黒田浩揮（筑駒）

【Novice カテゴリー】1. 浦上尚子（神大附属 KUSS D）1. 片岡譲（最弱戦士）3. 佐藤陽花（多摩）4. 岡崎さほ（南山女子 B）4. 平沢 水妃（一関第一 A）4. 与保田悠人（藤島 A）7. 佐藤美侑（藤島 A）7. 金光爽良（神大附属 KUSS F）9. 浅野志帆（南山女子 A）9. 小林祐翔（藤島 C）10. 徳竹冬生（長野）

【四国九州カテゴリー】1. 堤遥菜（城ノ内 A）2. 大坪由史雅（香住丘 A）2. ゲイル由晏（香住丘 B）2. 古川萌々（城ノ内 A）5. 長尾橙和（城之内 A）5. 堤綾香（城之内 C）7. 吉屋志保（鹿児島中央）8. 櫛渕未来（城之内 C）9. 山崎温哉（須崎総合）9. 山口咲楽（鹿児島中央）9. 新田園華（香住丘 A）9. 前田明里（香住丘 B）9. 太田菜々香（城之内 B）

運営体制：

大会実行委員長：吉田祐一（真和中学・高等学校）、大会実行副委員長：和泉太輔（徳島県立城ノ内中等教育学校）、仮屋まどか（鹿児島県立鹿児島中央高等学校）、大賀哲（九州大学）、広報担当（メディア）：久保真大郎（ノートルダム清心中・高等学校）、橋田信（高知県立須崎総合高等学校）、広報担当（コミュニケーション）：泉美穂（神戸大学附属中等教育学校）、田村駿（兵庫県立相生高等学校）、総務担当：山田樹生子（岡山県立岡山大安寺中等教育学校）、山田慎太郎（福岡県立香住丘高等学校）、財務担当：山田樹生子（岡山県立岡山大安寺中等教育学校）、審査委員会：和泉太輔（徳島県立城ノ内中等教育学校）、三仙真也（福井県立藤島高等学校）、北田瑞希（一般社団法人パーラメンタリーディベート人財育成協会）、石塚玲於那（九州大学／ラ・サール高校出身）、岡田響稀（広島大学／兵庫県立葺合高校出身）、横畠惺（横浜国立大学／徳島県立城ノ内中等教育学校出身）、Tab 担当：松田康子（福岡県立久留米高等学校）、仮屋まどか（鹿児島県立鹿児島中央高等学校）、大会顧問：北原隆志（HPDU of Japan 理事長／渋谷教育学園渋谷中学高等学校）、加藤彰（HPDU 四国九州代表／九州大学）

（6）第13回日本高校生パーラメンタリーディベート連盟杯

HPDU Competition 2024

主催：一般社団法人 日本高校生パーラメンタリーディベート連盟

後援：文部科学省、ブリティッシュ・カウンシル、カナダ大使館、一般社団法人 日本英語交流連盟

特別協賛：有限責任 あずさ監査法人

協賛：公益財団法人 日本英語検定協会、iae グローバルジャパン株式会社、株式会社トモノカイ

メディアパートナー：読売新聞社

協力：エイムネクスト株式会社、キヤノン株式会社、キヤノンマーケティングジャパン株式会社、公益財団法人 日本フィルハーモニー交響楽団

趣旨：全国の高校生に、即興であるパーラメンタリーディベートの試合を行う機会を提供することにより、グローバル社会で活躍するのに必要とされる英語による論理的発信能力、問題発見解決能力、クリティカル・シンキング、コラボレーション力、グローバル課題や時事問題についての基礎知識、そして緩急やジェスチャー、ユーモアなどを意識した聞き手目線の分かりやすいパブリック・スピーチ力を養う。また、参加者間の交流を図り、共に学び合う関係を作る。

日時・場所:

- 1) 都道府県大会 2024年1月4日(木)～2月12日(月・祝) 場所は各地域で決定し実施
- 2) 全国大会 2024年3月22日(金) 15:00～24日(日) 17:00 オリンピック記念青少年総合センター

参加費: 1チームにつき 20,000 円 (選手及び引率者の大会中の宿泊費および食費を含む。尚、宿泊費と食費に関しまして、スポンサー様のご支援のもと半額を HPDU が負担。)

内容: ①World Schools Debating Championships(WSDC) Style (但し本大会用に修正を加えたもの) による英語ディベート大会

予選は4試合行われ、2、3、4試合目はパワーペアリングとなる。順位は、各チームの勝ち数と得点ポイントで決定し、ベスト8チームによる決勝トーナメントとベスト9～16チームによるトーナメント2を実施する。

②パラメンタリーディベートのスキル向上のためのワークショップ及びモデルディベート

③協賛企業による「今必要とされる人材」について等のプレゼンテーション

全国大会参加資格: 日本に住所がある高校に在学している学生(留学生、帰国生徒、外国籍の生徒も含む)のうち、日本高校生パラメンタリーディベート連盟に公式認定された各都道府県大会に参加して出場権を獲得した者、または本連盟より特別に出場権を与えられた者(同一都道府県内に出場希望校が1校であった場合など)。同一校のチームの参加とする。ただし、英会話スクールなど高等学校以外の団体は例外とする。

タイムテーブル:

第1日目 開会式・モデルディベート

15:00 受付、入場(センター棟417にて)

15:30 開会式

16:20 プレゼンテーション① 公益財団法人日本英語検定協会 「IELTSの試験について」

プレゼンター: 宮寄亮輔(教育事業部IELTS課)

引率者ミーティング(センター棟416にて)

17:00 宿泊施設チェックイン、夕食(センター棟2階カフェテリア「ふじ」にて)

19:00 プレゼンテーション② iaeグローバルジャパン株式会社

「グローバル人材の発揮: 価値の多様性の中で」

プレゼンター: 畠山直子(代表取締役)

モデルディベート(センター棟417にて)

◆Government ・小野暢思/HPDU チーフコーチ ・坪田彩華/広尾学園高等学校3年生 ・根来一葉/渋谷教育学園渋谷高等学校3年 ◆Opposition ・スミス理紗/慶應義塾大学3年 ・佐野智亮/東京大学1年 ・大内亮/渋谷教育学園幕張高等学校3年

21:00 伝達後解散

第2日目 予選

7:00 朝食(カフェテリア「ふじ」にて)

8:45 第1試合の対戦表・論題発表(準備時間20分)

9:10 第1試合開始(試合後ジャッジによる勝敗の説明 約30分)

10:50 第2試合の対戦表・論題発表(準備時間20分)

11:15 第2試合開始(試合後ジャッジによる勝敗の説明)

12:35 昼食(カフェテリア「ふじ」にて)

- 14:00 第3試合の対戦表・論題発表（準備時間20分）
 14:25 第3試合開始（試合後ジャッジによる勝敗の説明 約30分）
 16:05 第4試合の対戦表・論題発表（準備時間20分）
 16:30 第4試合開始（試合後勝敗の発表なしのアドバイス 約20分）
 18:00 夕食（カフェテリア「ふじ」にて）
 19:30 プレゼンテーション③ 株式会社トモノカイ
 プレゼンター：中村円香（プログラムデザイナー）、Toue Naomi Soledad
 トウエ ナオミ ソレダー（ファシリテーター）
 20:00 ワークショップ（センター棟417にて）
 「立論と順位時間の使い方」講師：小野暢志（HPDUチーフコーチ）/
 「留学生Talk」（センター棟416にて）株式会社トモノカイ
 講師：トウエ ナオミ ソレダーToue Naomi Soledad
 21:00 伝達後解散

第3日目 決勝トーナメント、トーナメント2（ベスト9～16のチームによるトーナメント）

- 7:00 シーツ回収、朝食（カフェテリア「ふじ」にて）
 9:00 集合、点呼
 9:10 トーナメント出場チーム発表
 9:30 準々決勝 対戦表・論題発表（準備時間25分）
 10:00 準々決勝 試合開始、英国人ディベーターによるワークショップ
 11:05 準決勝 対戦表・論題発表（準備時間25分）/
 ワークショップ（センター棟417にて準決勝と同時並行で12:00まで）

 11:40 準決勝 試合開始
 12:20 昼食（カフェテリア「ふじ」にて）
 13:30 決勝 対戦表・論題発表（準備時間25分）
 14:00 決勝 試合開始
 15:30 閉会式 表彰
 16:30 解散

都道府県大会参加校：

愛知県（7）愛知県立旭丘高等学校、愛知県立岡崎高等学校、愛知県立昭和高等学校、愛知県立千種高等学校、愛知県立半田高等学校、東海高等学校、南山高等学校女子部、
 茨城県（12）茨城県立竹園高等学校、茨城県立並木中等教育学校、茨城県立日立第一高等学校、茨城県立古河第三高等学校、茨城県立水戸第一高等学校、茨城県立水戸第二高等学校、茨城県立日立北高等学校、茨城県立藤代高等学校、茨城県立緑岡高等学校、清真学園高等学校、東洋大学附属牛久高等学校、茗溪学園高等学校
 岩手県（3）岩手県立一関第一高等学校、岩手県立盛岡第一高等学校、盛岡中央高等学校
 愛媛県（1）愛媛県立宇和島南中等教育学校
 大阪府（4）関西学院千里国際高等部、大阪府立北野高等学校、大阪府立豊中高等学校、関西創価高等学校
 岡山県（3）岡山県立岡山朝日高等学校、岡山県立岡山大安寺中等教育学校、岡山県立岡山城東高等学校

鹿児島県(9) 育英館高等学校、鹿児島県立大島高等学校、鹿児島県立鹿児島中央高等学校、鹿児島県立甲南高等学校、鹿児島県立武岡台高等学校、鹿児島県立鶴丸高校、鹿児島実業高等学校、鹿児島情報高等学校、ラ・サール高等学校

神奈川県(15) 浅野高等学校、栄光学園高等学校、湘南白百合学園高等学校、聖光学院高等学校、神奈川県立厚木高等学校、神奈川県立相模原高等学校、神奈川県立湘南高等学校、神奈川県立多摩高等学校、神奈川県立柏陽高等学校、カリタス女子高等学校、慶應義塾高等学校、慶應義塾湘南藤沢高等部、逗子開成高等学校、洗足学園高等学校、桐光学園高等学校

熊本県(6) 熊本県立熊本高等学校、熊本県立熊本北高等学校、熊本県立八代高等学校、熊本県立人吉高等学校、真和高等学校、尚綱高等学校

埼玉県(7) さいたま市立浦和高等学校、埼玉県立浦和高等学校、埼玉県立浦和第一女子高等学校、埼玉県立大宮高等学校、埼玉県立川越女子高等学校、埼玉県立蕨高等学校、さいたま市立大宮国際中等教育学校

静岡県(13) 静岡県立静岡高等学校、静岡県立清水東高等学校、静岡県立浜松江之島高等学校、静岡県立浜松湖南高等学校、静岡県立浜松北高等学校、静岡県立浜松西高等学校、静岡県立三島北高等学校、静岡県立吉原高等学校、静岡雙葉高等学校、常葉大学附属橘高等学校、藤枝明誠高等学校、不二聖心女子学院高等学校、静岡理工科大学星陵高等学校

千葉県(10) 芝浦工業大学柏高等学校、渋谷教育学園幕張高等学校、翔凛高等学校、千葉市立稲毛高等学校、千葉敬愛高等学校、千葉県立佐倉高等学校、千葉県立船橋高等学校、千葉県立成田国際高等学校、千葉県立松戸国際高等学校、東邦大学付属東邦高等学校

東京都(12) 攻玉社高等学校、渋谷教育学園渋谷高等学校、白百合学園高等学校、筑波大学附属駒場高等学校、帝京大学高等学校、東京都立日比谷高等学校、東京都立両国高等学校、東洋英和女子学院高等部、獨協高等学校、広尾学園高等学校、富士見高等学校、三田国際学園高等学校

徳島県(5) 徳島市立高等学校、徳島県立阿波高等学校、徳島県立城東高等学校、徳島県立城之内高等学校、徳島県立徳島北高等学校、

栃木県(10) 栃木県立足利高等学校、栃木県立宇都宮高等学校、栃木県立宇都宮東高等学校、栃木県立宇都宮女子高等学校、栃木県立大田原高等学校、栃木県立大田原女子高等学校、栃木県立佐野高等学校、栃木県立栃木女子高等学校、栃木県立真岡女子高等学校、作新学院高等学校

富山県(1) 富山国際大学付属高等学校

長野県(2) 長野県長野高等学校、長野県屋代高等学校

兵庫県(3) 神戸市立葺合高等学校、神戸大学附属中等教育学校、雲雀丘学園高等学校

福井県(1) 福井県立藤島高等学校

福岡県(1) 福岡県立香住丘高校

山梨県(1) 山梨県立甲府西高等学校

(以上 126 校)

全国大会参加校：47校 47チーム 141名

岩手県 岩手県立一関第一高等学校

茨城県 茨城県立並木中等教育学校、茨城県竹園高等学校、茨城県清真学園高等学校・中学校、日立第一高等学校 Hitachi Daiichi High School

栃木県 栃木県立宇都宮高等学校、作新学院高等学校、栃木県立大田原高等学校、栃木県立宇都宮東高等学校

埼玉県 さいたま市立浦和高等学校、埼玉県立川越女子高等学校、埼玉県立大宮高等学校

神奈川県 慶應義塾湘南藤沢中等部・高等部、栄光学園高等学校、聖光学院高等学校、カリタス女子高等学校、浅野高等学校

千葉県 翔凜高等学校、千葉県立松戸国際高等学校、東邦大学付属東邦高等学校、渋谷教育学園幕張高等学校

東京都 渋谷教育学園渋谷高等学校、三田国際学園高等学校、東京都立日比谷高等学校、広尾学園高等学校

静岡県 藤枝明誠高等学校、静岡県立清水東高等学校、静岡県立三島北高等学校、静岡県立浜松西学校、静岡県立浜松江之島高校

山梨県 山梨県立甲府西高等学校

長野県 長野県長野高等学校

富山県 富山国際大学付属高等学校

福井県 福井県立藤島高等学校

愛知県 南山高等学校女子部、愛知県立千種高等学校、東海高等学校

大阪府 関西学院大阪インターナショナルスクール

兵庫県 神戸大学附属中等教育学校

岡山県 岡山県立岡山朝日高等学校

愛媛県 愛媛県立宇和島南中等教育学校

徳島県 徳島県立城ノ内中等教育学校

徳島県 徳島県立徳島北高等学校

福岡県 福岡県立香住丘高等学校

熊本県 真和高等学校

熊本県 熊本県立八代高等学校

鹿児島県 鹿児島県立鶴丸高等学校

Motions (論題) ・ 対戦記録 :

■ 予選で用いられた論題

Round 1	THBT schools should allow students to use generative artificial intelligence (e.g. ChatGPT, Gemini, etc)	勝利数: [肯定側] 9 (37.5%) [否定側] 15 (62.5%)
Round 2	THW allow public servants to strike.	勝利数: [肯定側] 8 (33.3%) [否定側] 16 (66.7%)
Round 3	THW also punish parents when their children commit a crime.	勝利数: [肯定側] 10 (41.7%) [否定側] 14 (58.3%)
Round 4	THW abolish affirmative actions.	勝利数: [肯定側] 11 (45.8%) [否定側] 13 (54.2%)
予選全体		[肯定側] 38 (39.6%) [否定側] 58 (60.4%)

■ 決勝トーナメント・結果 (対戦組み合わせの左側が Gov, 右側が Opp)

QF	OTHBT SNS does more harm than good to democracy. 【T2】・Kobe University [0] vs Eiko [1] ・Johnouchi [0] vs Senri-Osaka [1] ・Fujieda Meisei [1] vs Caritas [0] ・Nanzan Girls' [1] vs Omiya [0] 【Main】・Hiroo [0] vs. Makuhari [3] ・MURawa [2] vs. Shibuya [1] ・Mita [0] vs. Hibiya [3] ・Seiko [0] vs. Asano [3]
SF	OTHBT developing countries should limit rural-urban migration. 【T2】・Senri-Osaka [1] vs Eiko [2] ・Fujieda Meisei [0] vs. Nanzan Girls' [3] 【Main】・Makuhari [4] vs MURawa [1] ・Hibiya [0] vs Asano [5]

GF	OTHBT randomly selected citizens should judge in the debate tournaments. 【T2】・Eiko [0] vs Nanzan Girls' [9] 【Main】・Asano [6] vs. Makuhari [7]
----	---

予選大会結果：

順位	学校名	勝数	得点	順位	学校名	勝数	得点
1	渋谷教育学園幕張高等学校	4	1098.0	25	鹿児島県立鶴丸高等学校	2	1051.5
2	聖光学院高等学校	4	1087.5	26	茨城県立竹園高等学校	2	1049.0
3	三田国際学園高等学校	4	1076.5	27	日立第一高等学校	2	1046.0
4	渋谷教育学園渋谷高等学校	3	1100.5	27	栃木県立大田原高等学校	2	1046.0
5	さいたま市立浦和高等学校	3	1090.0	29	福岡県立香住丘高等学校	2	1045.5
6	東京都立日比谷高等学校	3	1085.5	30	翔凛高等学校	2	1045.0
7	浅野高等学校	3	1082.0	31	東海高等学校	2	1042.5
8	広尾学園高等学校	3	1078.5	32	静岡県立三島北高等学校	2	1039.5
9	神戸大学附属中等教育学校	3	1071.0	33	慶應義塾湘南藤沢高等部	1	1070.0
10	埼玉県立大宮高等学校	3	1069.5	34	茨城県清真学園高等学校	1	1067.5
11	藤枝明誠高等学校	3	1067.5	35	福井県立藤島高等学校	1	1067.0
11	徳島県立城ノ内中等教育学校	3	1067.5	36	栃木県立宇都宮東高等学校	1	1062.0
13	関西学院大阪インターナショナルスクール	3	1062.5	36	富山国際大学付属高等学校	1	1062.0
14	カリタス女子高等学校	3	1052.0	38	静岡県立浜松西高等学校	1	1061.0
15	南山高等学校女子部	2	1082.0	39	作新学院高等学校	1	1057.0
16	栄光学園高等学校	2	1073.0	40	千葉県立松戸国際高等学校	1	1052.0
17	東邦大学付属東邦高等学校	2	1068.5	41	静岡県立清水東高等学校	1	1051.0
18	栃木県立宇都宮高等学校	2	1068.0	42	岡山県立岡山朝日高等学校	1	1041.0
19	長野県長野高等学校	2	1060.5	43	山梨県立甲府西高等学校	1	1040.5
20	静岡県立浜松江之島高校	2	1058.5	44	真和高等学校	1	1032.0
21	岩手県立一関第一高等学校	2	1057.5	45	愛媛県立宇和島南中等教育学校	0	1040.0
22	埼玉県立川越女子高等学校	2	1056.5	46	徳島県立徳島北高等学校	0	1026.0
23	茨城県立並木中等教育学校	2	1056.0	47	愛知県立千種高等学校	0	1024.5
24	熊本県立八代高等学校	2	1055.0				

ベストスピーカー：

順位	学校名	名前	得点
1	浅野高等学校	Natsuki Mogi	315
1	渋谷教育学園幕張高等学校	kanegae Seiji	315
1	渋谷教育学園渋谷高等学校	Ryoka Tanoi	315
1	渋谷教育学園渋谷高等学校	Soyo Tanida	315
5	渋谷教育学園幕張高等学校	Ayman Areeb	314

6	渋谷教育学園渋谷高等学校	Kanon Nakamura	313
7	さいたま市立浦和高等学校	Aya Fujii	312
7	聖光学院高等学校	Kei Fukiage	312
7	渋谷教育学園幕張高等学校	Hayakawa Shin	312
10	さいたま市立浦和高等学校	Aoi Furutani	311
10	さいたま市立浦和高等学校	Azathi Kamiyama	311
10	聖光学院高等学校	Haruto Fukuda	311
10	三田国際学園高等学校	Sophia Vecerek	311
10	東京都立日比谷高等学校	Eugene Kamae	311
15	慶應義塾湘南藤沢中等部・高等部	Kimiwada Hiroki	310
15	聖光学院高等学校	Harumichi Kikuno	310
15	東京都立日比谷高等学校	Aino Umino	310
15	南山高等学校女子部	Saho Nishiumi	310
19	三田国際学園高等学校	Eri Suzuki	309
19	東京都立日比谷高等学校	Kotaro Sato	309
19	広尾学園高等学校	Shin Morimoto	309
19	広尾学園高等学校	Ryosei Watanabe	309
19	南山高等学校女子部	Lisa Yokoshiro	309
19	南山高等学校女子部	Miyu Fujioka	309

決勝大会結果：

優 勝： 渋谷教育学園幕張高等学校

準優勝： 浅野高等学校

3 位： さいたま市立浦和高等学、東京都立日比谷高等学校

5 位： 聖光学院高等学校、三田国際学園高等学校、渋谷教育学園渋谷高等学校、広尾学園高等学校

招待ジャッジリスト：

- 1 小野暢思 審査委員長/慶應義塾大学KDS OB 36 times champion, WUDC 2015 ESL Quarter Finalist, EFL 4th Best Speaker
- 2 スミス理紗 慶應義塾大学3年 Sun-Sun Cup British Parliamentary Debate Tournament 2021 Grand Finalist, Momiji Cup British Parliamentary Debate Tournament 2021 Grand Finalist, Evergreen Cup British Parliamentary Debate Tournament 2022 Rookie Grand Finalist, Asian Bridge 2022 Champion, 5th best speaker, Spring Tournament 2022 Open Semifinalist, 3rd rookie best speaker, Sophomon Cup 2022 Champion, 5th rookie best speaker and 9th open best speaker, 13th Icho Cup 7th Best Adjudicator, K-Cup 2022 Grand-Finalist, 3rd Best Speaker, Gemini Cup 2022 Rookie Champion, Rookie Grand Final Best Speaker, Autumn Tournament 2022 Open Pre-Semifinalist, Deputy Chief Adjudicator of Nemophila Cup 2023
- 3 古田和香奈 渋谷教育学園渋谷高等学校英語ディベート部OG PDWC (2021、2023)優勝
- 4 林武徳 早稲田大学ディベート部OB Asian BP2012 EFL Champion, 栃木県高校英語ディベート冬季大会 2023 Chief Adjudicator, HPDU静岡県大会2022-2024 Chief Adjudicator
- 5 伊地知真代 ICUDS OB
- 6 日下瑞樹 大阪府立大学ESS パーラセクOB JPDU spring tournament2023 5th best adjudicator、Keio

Debate Open 2024 Semi Finalist

- 7 綾部功 東海大学教授 2024年Keio Debate Openセミファイナリスト
- 8 渋谷浩之 東京大学ディベート部OB
- 9 江口花音 渋谷教育学園渋谷高等学校英語ディベート部OG HPDU都大会優勝
- 10 望月雄大 藤枝明誠高校教諭、東海大学ディベートOB BA of 21st ICU-t
- 11 大西祐二 武蔵大学OB Titech杯・ADI Quarter Final
- 12 酒主維吹 作新学院高校教諭
- 13 大村圭史 名古屋大学ディベート部OB CA, Japan BP 2021, Champion, Osawa Cup 2022, Grand Finalist, Tokyo Mini 2022, Best Adjudicator, Japan BP 2023"
- 14 坪田彩華 広尾学園高校ディベート部OG 2023 HPDU 東京都一位, 2022 & 2023 HPDU準々決勝, Interschools 2022 優勝, HKOWSDCI 2022 優勝, IIUM 2022 決勝, Silver Cup 2024 決勝, KDO 2024 優勝
- 15 川上清 東京大学英語ディベート部OB 2012年 HPDU杯 全国大会 優勝
- 16 山本順爾 慶應大学ディベート部OB
- 17 白鳥優子 渋谷教育学園渋谷高等学校英語科教諭
- 18 島田絢菜 渋谷教育学園渋谷高等学校英語ディベート部OG HPDU連盟杯2023 第5位, SOLA Cup 2022 Grand Finalist, 10th best speaker"
- 19 奥村幸太 ICU Debating Society OB, Sophomon cup2021 Grand finalist, KDO2024 Quarter finalist, Umeko cup 2020 Breaking Judge, Gemini cup 2021 Breaking, 2nd Best Judge, ICUT 31 Breaking Judge "
- 20 伊藤杏珠 渋谷教育学園渋谷高等学校英語ディベート部OG
- 21 ライ・メルビン 東洋英和女学院 教諭
- 22 三木一優 三田国際学園中学校高等学校英語科教諭 Keito Debate Open 2024 Semi Finalist, Keito Debate Open 2023 Grand Finalist, Japan BP 2023 Quarter Finalist
- 23 大賀哲 Judge: QUDS Uhuru Worlds 2023, BP, 260 teams, chaired 5/5 inrounds, broke, panelled Open QF, SIDO 2022, 120 teams, BP, chaired 5/5 inrounds, broke, panelled Open QF, Imperial IV 2022, BP, 100 teams, chaired 5/5 inrounds, panelled Open QF, Ukraine Charity Open 2022, BP, 52 teams, chaired 1/4 inrounds, panelled GF, Uhuru Worlds 2022, BP, 300 teams, chaired 7/7 inrounds, panelled ESL QF Debater: Twitter Debate Open vol.2. 2022, 3. (Japan), BP Grand-Finalist. 4th Break, Nagoya Debate Open. 2020. 6. (Japan) AP, Quarter Finalist. 8th Break, Kansai Pro-Am BP Tournament. 2020. 5. (Japan) BP, 3rd Rookie Best Speaker, BP Novice West. 2019. 11. (Japan) BP, Pre-Semi Finalist & 10th Best Speaker. 10th break, Kyushu Debate Open. 2019. 8. (Japan) BP, Novice Grand Finalist. 3rd Break
- 24 Philip Hope Manugay Fujishima High School ALT 3rd Best Judge (Momiji Cup 2022), Semifinalist, 5th Best Speaker (Japan BP 2022), 5th Best Judge (Asian Bridge 2023), Rookie Champion, Rookie Finals Best Speaker, 5th Best Reply Speaker (KDO 2023), Grand Finalist (Japan BP 2023), Rookie Champion, Rookie Finals Best Speaker (KDO 2024)
- 25 郷中健太郎 慶應義塾大学英語即興ディベートサークルKDS OB, 2016 Gemini Cup 優勝, 2016 The Kansai Quarter Finalist
- 26 荻野智明 UTDS OB The Kansai 優勝, HKDO入賞, 九州カップ準優勝, 冬T セミファイナル, ESUJ準優勝 ジャッジ入賞(The Kansai)
- 27 神田駿介 慶應義塾大学ディベート部OB

- 28 中村舜生 慶應義塾大学ディベート部OB
- 29 小林優稀 上智大学英語即興ディベート部(SDS)OG、さいたま市立浦和高等学校OG 4回HPDU杯全国大会5位, Icho Cup 2019 7th Best Adj, Nemophila Cup 2023 2nd best adj, Tea Cup 2024 Overall Best adj
- 30 世永智也 一橋大学DebTe Section OB Debater:Champion, ICUT 2014, EFL Semi-finalist and 7th EFL Best Speaker, WUDC Chennai, Open Semi-finalist, Indonesia Debate Open 2013, Open Semi-finalist and 4th Best Speaker, Canton IV 2016, Oct-finalist, Hong Kong Debate Open 2014, -EFL Grand-finalist and EFL 2nd Best Speaker NEAO 2013, Champion, Top-breaking team, 2nd Best Speaker, GF Best Speaker, Japan BP 2017, Champion, Top-breaking team, Overall Best Speaker, Japan BP 2019, Open Semi-Finalist and top 10 speaker, Kyushu Debate Open 2018, Champion, Top-breaking team, 3rd best speaker, GF Best speaker, Tokyo Mini 2019, Champion, Top-breaking team, 5th Best Speaker, Tokyo Mini 2015, Champion, Japan Pre-Australis 2016, Champion, 5th Best Speaker, Debate no Susume 2019, Grand-finalist, JPDU Spring National 2012, EFL 4th Best Speaker, Malaysia Debate Open 2017 Adjudicator:Co-CA, NEAO 2016, CA, JPDU Autumn National 2014, 2018, CA, JPDU National Novice 2013, DCA, Asian BP 2016, DCA, NEAO 2015, DCA, ICUT 2018, DCA, Beijing Debate Challenge 2016, DCA, 3rd Korea Deate Open 2015, DCA, JPDU Spring Nationals 2017, DCA, Titech Cup 2014, DCA, Debate no Susume 2016, DCA, Tokyo Mini 2016, DCA, Titech Cup 2018, Overall Best Adj and GF Chair, ICUT 2015, Overall Best Adj and GF Adj, ICUT 2017, Overall Best Adj and GF Adj, Japan BP 2015, Overall Best Adj, JPDU Autumn Nationals 2015, Overall Best Adj and GF Adj, Freshman National 2015, Overall Best Adj and GF Chair, Japan Cosplay Tournament 2017, Overall Best Adj and GF Chair, Kawauso Debate Challenge 2017, Overall Best Adj, National Pro-Am 2018, Overall Best Adj and GF Chair, Ryoso Cup 2018, Overall Best Adj, GF Chair, The Kansai 2020, Invited, 6th Best Adj, a GF Adj, NorthEast Asian Open 2017, Invited, 4th Best Adj, and GF Adj, ICUT 2019, Invited and GF Adj, Taiwan Pre-NEAO 2018, Invited and HS Final Adj, HKDO 2018, Invited and GF Adj, SMU Hammers 2015, Invited and GF Adj, 1st Korea Debate Open 2014, Invited, EFL-GF Adj, NEAO 2014, Invited, GF Adj, KIDA IV 2014, Invited, Breaking Adj, Cape Town WUDC, Invited, Breaking Adj, Malaya Australasian Intervarsity Debating Championship 2018, Invited, Breaking Adj, UADC Bali 2015, Breaking Adj, MDO 2012-13, Other:President, JPDU 2014, Language Officer, NEAO 2017, Language Officer, Bali UADC 2015, Language Officer, NEAO 2013, Language Officer, Australis 2018"
- 31 高慧淑 神奈川朝鮮中高級学校 高校非常勤講師 23年Keio Debate Open Rookie 3rd Best Speaker
- 32 干場健太郎 慶應大学ディベートサークルOB
- 33 廣瀬莉子 東洋英和女学院高等部2年 TOC Summertime Cup 2023 Quarter Finalist, SOLA cup 2023 中高生パラメンタリーディベート国際大会 Quarterfinalist 1st Best Speaker, 2023年 Route H英語即興ディベート大会経験者大会5位 2nd Best Spealer, 第4回日本中学生パラメンタリーディベート大会第2位 3rdBest Speaker, 第11回 高校生英語パラメンタリーディベート連盟新緑杯第4位, 第一回 Mixidea english debate cup 3位 6th Best Speaker, 第12回 日本高校生パラメンタリーディベート連盟杯東京都大会5位, 第12回日本高校生パラメンタリーディベート連盟杯9位 17th Best Speaker, 第13回 日本高校生パラメンタリーディベート連盟杯東京都大会 3rd Best Speaker Award, Asian Bridge 2024 Open Semifinalist, 4th Rookie Speaker, Keio Debate Open 2024 Rookie Semifinalist, 1st Best Rookie Speaker
- 34 岩井玲子 愛知県立半田高等学校教諭

ボランティア：運営委員21名、他に大学生5名、社会人30名【合計】56名

HPDU役員以外の運営委員：ライ・メルビン、濱野綾音、長谷川りお、伊東杏樹、坪田彩華、島田絢菜、古田和香奈、東佑龍、白鳥陽大、青木茉莉花、三村小夏、エリクソン愛和、須藤咲、青木帆希、黒田浩揮、長谷川佑一郎、ファスカインディゴ風

各種教育奨励賞：

- 1) ESUJ 賞：優勝チームのディベーター1名につき教育奨励金として10万円贈呈。総額30万円。
- 2) あずさ監査法人賞：参加者全員にパーラメンタリーディベート練習用テキストを贈呈。
- 3) 日本英語検定協会賞：予選ベストスピーカー賞受賞生徒、決勝トーナメント出場校に図書カードを贈呈。
- 4) 日本フィルハーモニー交響楽団賞：上位4チームにコンサートチケットと音楽CDを贈呈。
- 5) キヤノン賞：優勝チームにデジタルカメラとSDカードを贈呈。
- 6) キヤノンマーケティングジャパン賞：準優勝チームにスマホ専用ミニフォトプリンターを贈呈。
- 7) アルク賞：予選大会ベスト16以上のチームに書籍を贈呈。

■ 第13回 連盟杯（2024年3月）参加者アンケート（回答総数 143）

[A] 試合の論題はどうでしたか

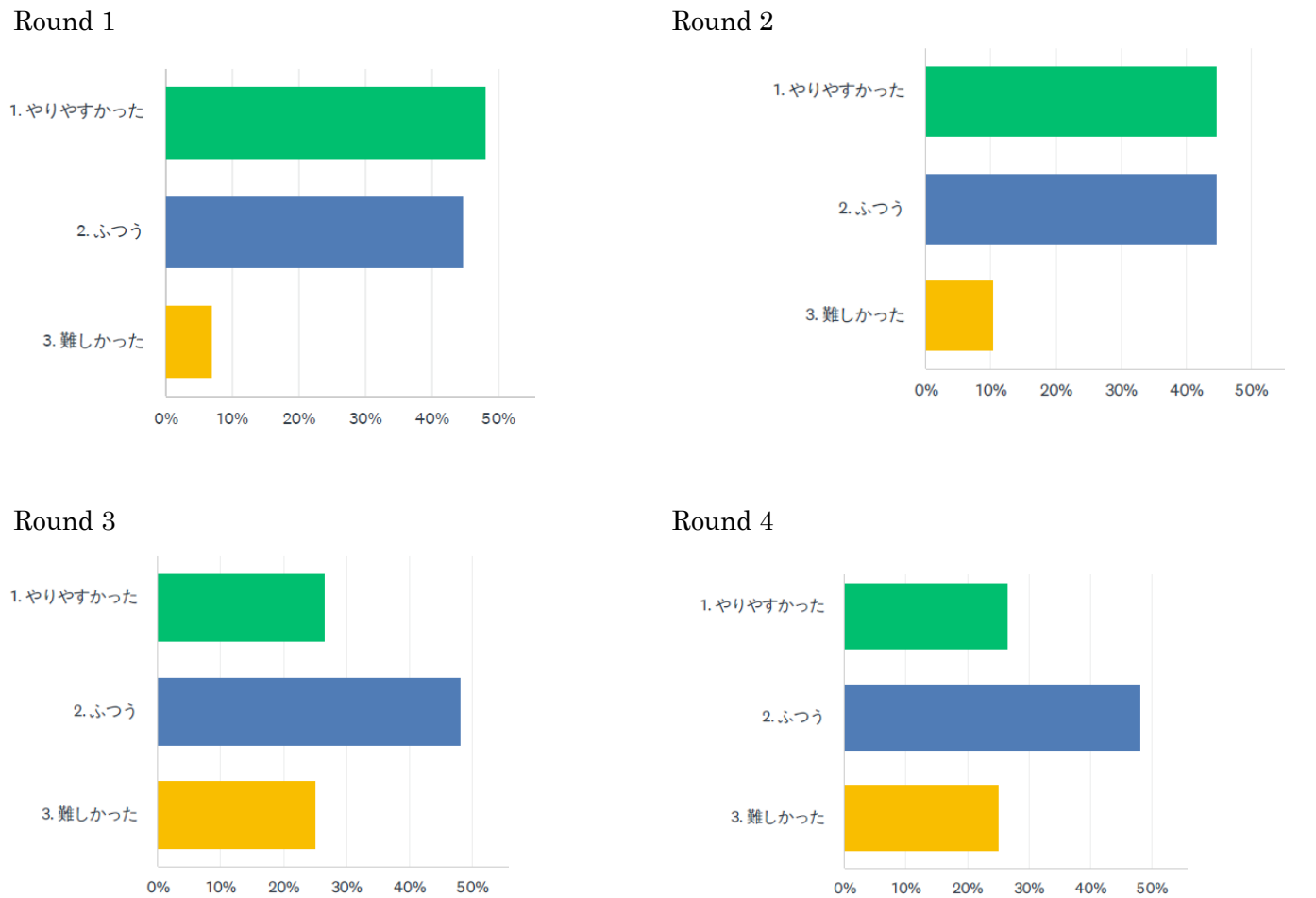


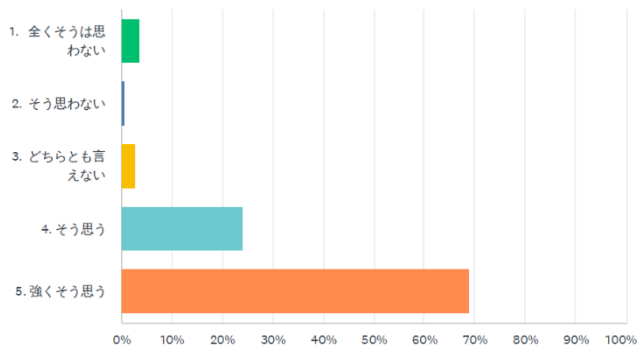
表 A 予選4試合の論題の難しさについて

	Round 1		Round 2		Round 3		Round 4	
1. やりやすかった	48.3%	69	44.8%	64	26.6%	38	23.1%	33
2. ふつう	44.8%	64	44.8%	64	48.3%	69	37.1%	53

[B] この大会を通してよかったことは何ですか。

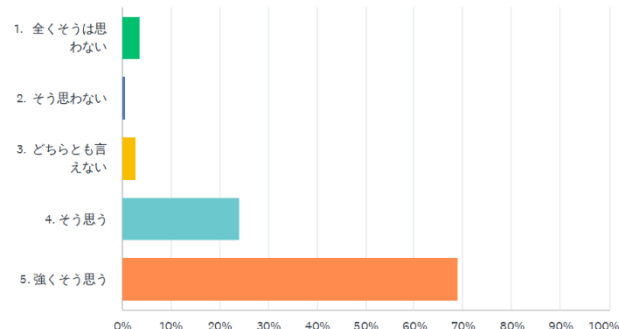
(ア) ディベートをする機会があったこと

回答数：141 スキップ数：2



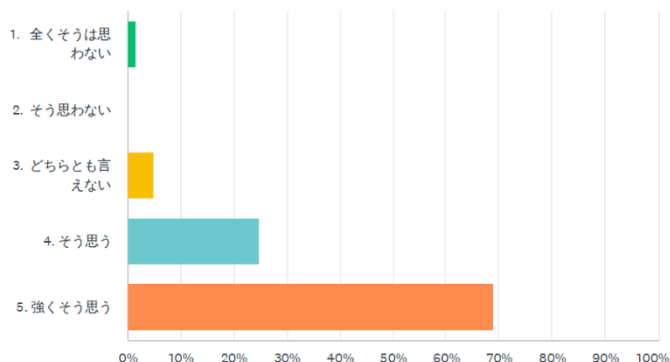
(イ) ジャッジの講評が参考になったこと

回答数：141 スキップ数：2



(ウ) 他校の生徒を見て励みになったこと

回答数：141 スキップ数：2



(エ) 他校の生徒と交流ができたこと

回答数：141 スキップ数：2

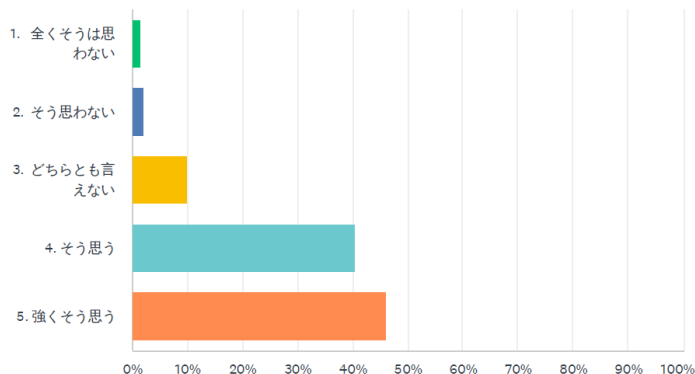


表 B この大会を通して良かったこと

	(ア) ディベートをする機会があったこと	(イ) ジャッジの講評が参考になったこと	(ウ) 他校の生徒を見て励みになったこと	(エ) 他校の生徒と交流ができたこと
1. 全くそうは思わない	3.6% 5	1.42% 2	1.4% 2	1.4% 1
2. そう思わない	0.7% 1	1.42% 2	0.0% 0	2.1% 3
3. どちらとも言えない	2.9% 4	10.0% 14	5.0% 7	9.9% 14
4. そう思う	24.1% 34	34.8% 49	24.8% 35	40.4% 57
5. 強くそう思う	68.8% 97	52.5% 74	68.8% 97	46.1% 65

【ここまでの質問に関する自由記述回答】(回答数 25)

- ・宿泊できて、修学旅行みたいで楽しかったです！
 - ・大会を運営し貴重な学びの場を提供していただけたことに心から感謝しています。ありがとうございました。
- 部屋の環境が悪かったり、シーツにガムがあったり、選手が心地よく休めてディベートをできるようにするべきだと思う。
- また、第三ラウンドのジャッジもディベートをわかってなさそうで、結構決められないから自分の意見で決めていて、もっとジャッジを採用する基準を設けて公平なシステムをつくるように務めるべきだと思う。
- ・本当に素晴らしい大会をありがとうございました！！

- ・素晴らしいレクチャーを聞くことができた
- ・たまにジャッジたちが contradictory feedback を伝わったので、少し迷いました
- ・尊敬するディベーターの方々に実際に会うことができ、生で試合中の様子を見ることができたこと。

ジャッジを招待することは難しいと思うが、ジャッジが複数人いればより良いフィードバックを得られ、また結果に納得できると感じる。

すごいすごいすごい楽しかったです！！ジャッジの方に丁寧にフィードバックをいただけたので、それを元に練習を頑張って来年またきます！！

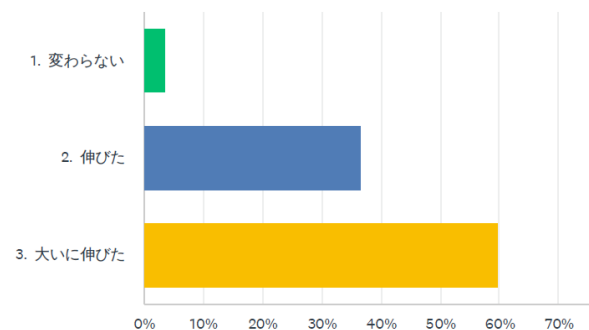
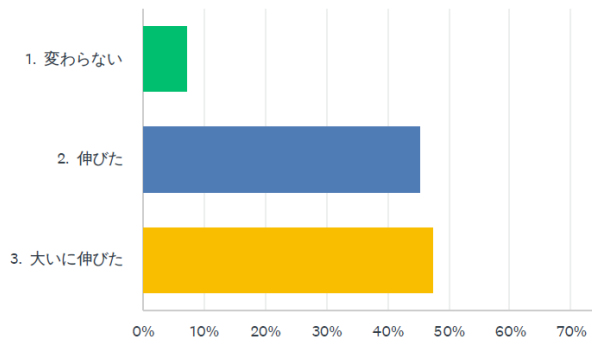
- ・もっと向上するためにとても参考になりました
- ・良い経験ありがとうございました。
- ・小野みつしさんのレクチャーを聞いたこと。

ワークショップがとても為になりました。是非色々な機会ディベートについてのワークショップを開いていきたいです。ディベートへの理解が深まるのと同時に、もっとディベートをやりたいという気持ちになりました。

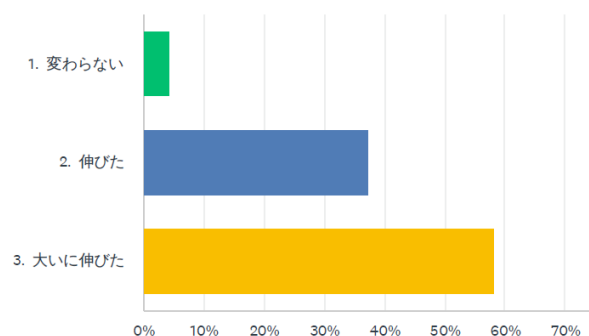
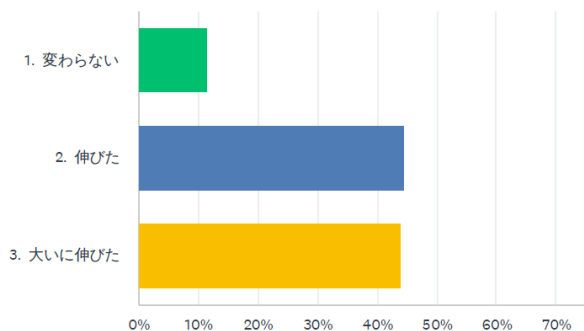
- ・すごく楽しいディベートを聞いたこと
- ・ブレイクアナウンスメントの演出など、盛り上げるための努力をととても感じました！！
- ・最初は緊張して、自分の能力にプレッシャーを持っていましたが、他の選手を見て励みになりました！
- ・部活のメンバーとの仲が深まったこと。
- ・ジャッジさんにもう少しメモをとっていただきたいです。
- ・貴重な機会を用意していただきありがとうございました。とても学びの多い3日間でした。

[C] Parliamentary Debate を通してどの様な力が伸びたと思いますか

(ア) 知識・教養 (イ) 英語で発表する力



(ウ) 英語を聞く力 (エ) 論理的思考



(オ) 英語の文法力

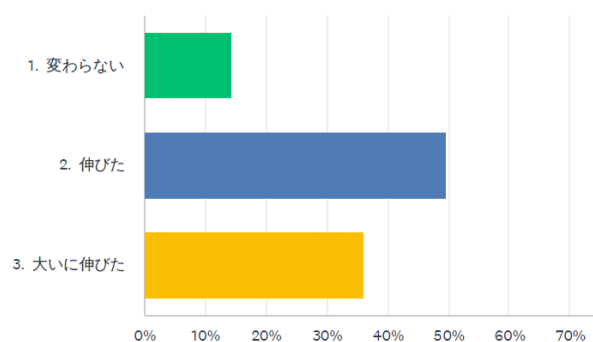
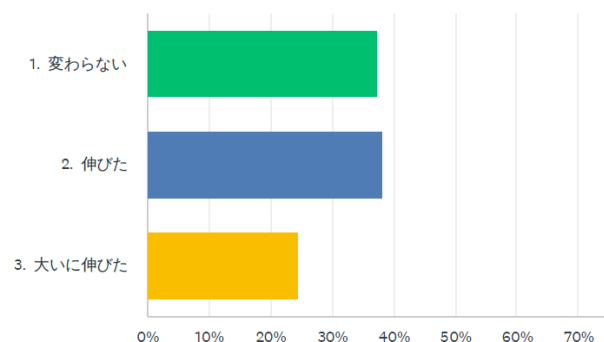
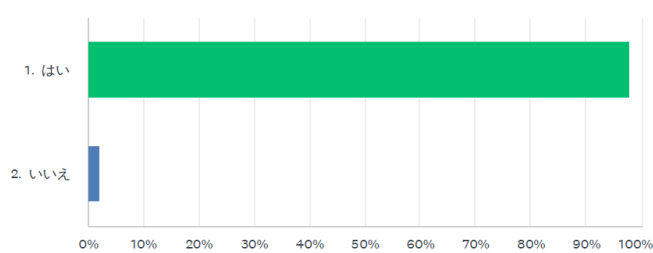
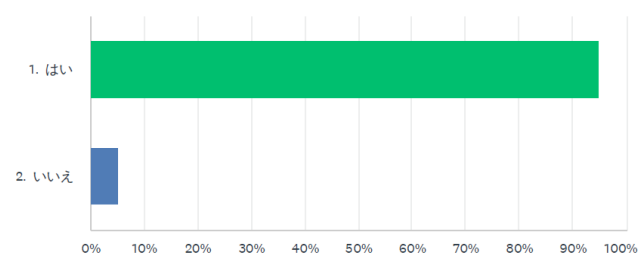


表 C Parliamentary Debate を通してどの様な力が伸びたと思いますか

	(ア) 知識・教養	(イ) 英語で発表する力	(ウ) 英語を聞く力	(エ) 論理的思考	(オ) 英語の文法力	(カ) 英語の語彙力
1. 変わらない	7.2% 10	3.6% 5	11.5% 16	4.3% 6	37.4% 52	14.4% 20
2. 伸びた	45.3% 63	36.7% 51	44.6% 62	37.4% 52	38.1% 53	49.6% 69
3. 大いに伸びた	47.5% 66	59.7% 83	43.9% 61	58.3% 81	24.5% 34	36.0% 50

[D] 即興型ディベート(Parliamentary Debate) について

(ア) Parliamentary Debate は、大学受験に役に立つと思いますか？ (イ) Parliamentary Debate は、将来役立つと思いますか？



(ウ) Parliamentary Debate を授業でもやりたいと思いますか？

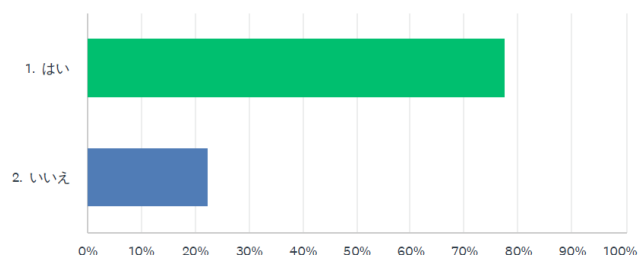


表 D 即興型ディベートについて

	(ア) Parliamentary Debate は大学受験に役に立つと思いますか	(イ) Parliamentary Debate は将来役立つと思いますか。	(ウ) Parliamentary Debate を授業でもやりたいと思いますか。
1. はい	95.0% 132	97.8% 136	77.7% 108
2. いいえ	5.0% 7	2.2% 3	22.3% 31

[E] 全体に関して

(ア) 総合的に見て、この大会にどの程度ご満足いただけましたか？ (イ) この大会参加を、部活の後輩などに勧めたいと思いますか？

表 E 全体に関して

(ア)総合的に見て、この大会にどの程度ご満足いただけましたか？		(イ)この大会参加を、部活の後輩などに勧めたいと思いますか？		
1. 非常に満足している	60.9	64	79.7%	110
2. やや満足している	31.3%	31	15.9%	22
3. どちらとも言えない	1.0%	1	2.2%	3
4. あまり満足していない	2.0%	2	0.0%	0
5. 全く満足していない	1.0%	1	2.2%	3

【ここまでの質問に関する自由記述回答】(回答数 37)

・チーフコーチの方のレクチャーが非常に勉強になり、もっと試合をしたくなっているところです。
準優勝で悔しかったですが、チームメイトとひとつの目標に向かって努力する経験ができてとても有意義に経験になりました！

・楽しかったです！！
ブレイクこそできませんでしたが最後まで仲間と楽しくディベートできたので最高の部活を終えることができました。ありがとうございました。

選手交流の場(アイスブレイカー)みたいなのが 1 日目にあるとさらに楽しめて、選手同士の親睦も深まっていいのではないかと思います。

・ジャッジによって基準が違ったりするので、統一したら生徒もやりやすいと思います。
・とても勉強になりました。ありがとうございました。

プレゼンを見せるより選手を休ませたと思う。また、先程述べたように、正當にジャッジできない人がいて、ちゃんと採用する基準を設けるべきだ。

できれば 9-16 位の quarter finals も複数人のジャッジで勝敗を決めていただきたいと思った。その方がより正確なジャッジメントができると思う。バロツシートの説明を読んで正直納得し難いところがあった。

参加して本当に良かったです。ありがとうございました。来年度は、決勝に残れるように後輩に頑張ってもらいます。

・参加することができて凄く嬉し買ったです！
素晴らしい大会ありがとうございました。このような特別な機会を僕たち高校生にセットアップしてくださりありがとうございました。

・ありがとうございました！！
ジャッジの時間をしっかりとってあって、フィードバックを満足するまで聞くことができたのでありがたかったです。この 3 日間とても成長することができました。

昨年の先輩方からこの大会に参加した時の話を聞いてから一年間、素晴らしいディベーターの集う連盟杯に憧れを抱いて仲間とディベートをしてきました。県大会の結果、出場が決まってからはなかなか新しい形式に慣れませんでした。が、色んな資料を参考にして練習してきた成果は発揮できたと思います。ずっと尊敬していたディベーターの方々にも実際にお会いできて感無量です！

・3 日間ありがとうございました！
・運営してくださってありがとうございました！これからも頑張ります。
・GF のプレパの時間には音楽を流さない方がいいと思った。
・このような素晴らしい大会をありがとうございました！

レベルの高い人たちのディベートを観覧することができ、心から勉強になりました。また、熊本から来たのですが、他の県の人たちとの交流もでき、とても楽しかったです。小野さんのレクチャーや他校の生徒さんからの刺激を受けて、もっとディベートを上達させたいと思いました！トーナメント 2 にあと一歩というところで届かず、とても悔しい気持ちもあ

ります。しかし、まず 1 番はボランティアでジャッジをしてくださった方々、スタッフの方々、関係者の方々に感謝の気持ちを伝えたいです。本当にありがとうございました。

ありがとうございました。即興型のディベートは自分の可能性を大いに広げてくれます。その大いに広げてくれる可能性を試すことのできる大会があつて本当に良かったなと思うと同時に、自分の中でもっとなにかできることはないか、自分が社会に出たときに高校時代にやったモーションについてどのように解決していくか、などが考えられます。それも一人で考えるのではなく、自分自身のチームメイトや他校の生徒さん、そして先輩や先生方アドバイスを貰いながら考えることができるため、新たな知見がとてつと広がります。楽しかったです。ありがとうございました

- ・素敵な大会を運営してくださりありがとうございました。とても為になる機会でした。

- ・生で同年代の人とディベートできる機会は一つでも多い方がいいと思う

最後の論題が最高すぎました！ディベート愛が伝わってきてとても楽しかったし、嬉しかったです。もっとユニークなモーションを増やしてもいいのではないかと思います。ジャッジのスキルに差がありすぎる時があるのが気になりました。また、レクチャーは予選の前にはしていただけるといいです。全体的には、とても勉強になったし、楽しかったです。開催していただきありがとうございました。

- ・今回は古典的なモーションが多く、gov opp とともに建設的な議論ができてとても楽しかったです！！

ground final のディベートが聞いていて最高に楽しかったです ディベーターの皆さんが本当に audience ファーストで長いはずのスピーチ時間があつという間でした 私も彼らのように話せるようもっともっと努力したくなりました とてもいい刺激を受けられたこと嬉しく思っています

- ・参加させていただいてありがとうございました。とても楽しく、学びの多い貴重な機会をいただきました。

- ・全国のディベーターたちから多くの刺激をもらって英語力向上の大きなモチベーションになりました。

色んな方と知り合えて、色んな意見をもらえて、とてもいい経験になった。今後のモチベに大いに繋がった。

他の学校やジャッチの方と関わったことは、自分のモチベーションになりました。このような機会をありがとうございました。

- ・本当にいい経験になりました！ありがとうございました🙏

ひじょーーーーーに貴重な経験になりました。他県の化物と会えて刺激を貰えました。ありがとうございました。

- ・とても楽しかったです。こういった機会をぜひ増やしていただけるとありがたいです。

- ・今 2 年生で最後ですが、また一年生からやり直したいくらい楽しかったです。後 3 回出たい！)笑

選手との交流や、他校の選手の圧倒される素晴らしい立論を聞くことが出来、来年もディベートを頑張るモチベーションになった

- ・ワークショップがとても参考になりました。

- ・他校のディベート、モデルディベート、レクチャーなどから多くの刺激を受けました。

- ・オリセンに泊まるかを任意にして欲しい

(7) 第 13 回 高校生英語パラメンタリーディベート連盟 新緑杯 東日本大会

HPDU Spring Greenery Competition of East Japan 2024

主催：一般社団法人 日本高校生パラメンタリーディベート連盟

後援：公益財団法人 日本英語検定協会、一般社団法人 日本英語交流連盟

特別協賛：有限責任 あずさ監査法人

協賛：iae グローバルジャパン株式会社、株式会社トモノカイ

協力：エイムネクスト株式会社

日時：2024 年 6 月 16 日（日）8：30～18：00

場所：さいたま市立浦和高等学校

参加費：1 チームにつき 4,000 円（各学校から参加申込チーム数は最大で 3 チームまで。）

主旨：（１）パラメンタリーディベートを通して高校生の総合的英語運用能力を伸ばす。

（２）経験者が新人ディベーターを育成する機会を提供する。

（３）様々な社会問題に興味関心を持つ態度を養う。

（４）高校教員のジャッジ養成の機会を提供する。

参加資格：（１）日本に住所がある高校に在学している１学年から３学生までの生徒（留学生、帰国生徒、外国籍の生徒も含む）。

（２）新緑杯西日本大会、新芽杯に参加していない学校の生徒。

（３）１チームにつき１名のジャッジ派遣

試合形式：（１）試合：連盟杯スタイル〔５分、５分、５分、５分、４分、４分〕

（Constructive speech が ５分 で、Reply speech が ４ 分）。論題発表から試合開始までの準備時間は 20 分間。４試合（２試合以降は パワーペアリング）。

（２）４試合（２試合目以降はパワーペアリング）パワーペアリングを優先するため、肯定側と否定側のバランスが取れない場合があります。

（３）得点ポイントの高かったチーム、経験者ディベーター、新人ディベーターを表彰。

チーム構成の条件：

（１）チームの登録人数は３人。チーム内には必ず新人ディベーターが１人は含まれていること。新人ディベーターとは、パラメンタリーディベート公式戦での試合経験がないか、おおよそ１０ヵ月未満の生徒を指します。

（２）同一校のチームの参加とします。ただし、英会話スクールなど HPDU が認めた高等学校以外の団体は例外とします。

日程：８：３０～ ８：４５ 受付

８：４５～ ９：１５ 開会式

９：１５～ ９：２５ 第１試合 対戦表、論題発表

９：２５～１０：４５ 準備（２０分間）、試合

１１：１０～１１：２０ 第２試合 対戦表、論題発表

１１：２０～１２：４０ 準備（２０分間）、試合

１２：４０～１３：１５ 昼食

１３：１５～１３：２５ 第３試合 対戦表、論題発表

１３：２５～１４：４５ 準備（２０分間）、試合

１５：２０～１５：２０ 第４試合 対戦表、論題発表

１５：３０～１６：４０ 準備（２０分間）、試合

１７：３０～１８：００ 表彰・閉会式

各スピーチの採点方法

本年度の大会では、個人得点は、以下の基準に基づいて与えられます。派遣ジャッジの方は大会前に把握しておいてください。その試合全体の質、また最終的な勝敗を決めるにあたって、貢献度の高かった順に１位～６位を割り振ります

（１）各試合でのスピーカーの順位を、得点に変換して個人得点とします。

１位⇒６点 ２位⇒５点 ３位⇒４点 ４位⇒３点 ５位⇒２点 ６位⇒１点

（２）同じ順位を複数名に与えることはありません。

（３）今回は貢献の度合いによる順位になりますので、個人得点のチーム総点は、勝利チームの方を必ず高くします。（つまり「low-win を認めない」ということです）。

（４）順位を決めるにあたって、複数名の選手の優劣を決め難い場合、この要項末に例年の新緑杯の個

人スコアのつけ方を掲載してありますので、参考にしてください。

表彰に関して

- (1) チーム成績は、試合の勝ち数、個人得点の合計の順の合計点で決定します。
- (2) 個人成績は、個人得点の累計で出します。
- (3) 表彰などで順位を確定させる必要がある場合、勝ち数が同じ、そして個人得点の総点と同じチームがあった際は、以下の様にして最終的な順位を決定します。
 - ・予選4試合のそれぞれが対戦した相手チームの勝数の合計
 - ・上記の合計が同じ場合は、それぞれが対戦した相手チームの個人得点の合計

参加校：32校 74チーム 参加生徒222名

栃木県 栃木県立宇都宮高等学校（3チーム）、作新学院高等学校（3チーム）
東京都 広尾学園高等学校（3チーム）、渋谷教育学園渋谷高等学校（3チーム）
山崎学園富士見高等学校（1チーム）、成蹊高等学校（1チーム）
東洋英和女学院高等部（1チーム）、東京学芸大学附属高等学校（1チーム）
白百合学園高等学校（3チーム）、東京都立三田高等学校（3チーム）
筑波大学附属駒場高等学校（1チーム）、三田国際学園高等学校（3チーム）
獨協中学高等学校（2チーム）、東京都立小石川中等教育学校（2チーム）
千葉県 渋谷教育学園幕張高等学校（3チーム）、翔凖高等学校（3チーム）
千葉県立成田国際高校（2チーム）、千葉市立稲毛高等学校（1チーム）
市川高等学校（2チーム）
神奈川県 聖光学院（3チーム）、神奈川県立相模原高等学校（3チーム）
逗子開成高等学校（1チーム）、栄光学園高等学校（3チーム）
洗足学園中学高等学校（2チーム）
埼玉県 埼玉県立大宮高等学校（3チーム）、さいたま市立浦和高等学校（3チーム）
埼玉県立川越女子高等学校（2チーム）
茨城県 茨城県立並木中等教育学校（3チーム）、茗溪学園中学校高等学校（1チーム）
茨城県立竹園高等学校（3チーム）、茨城県立日立第一高等学校（3チーム）
愛知県 南山高等学校女子部（3チーム）

Motions(論題)：

Round1: This House Would support the use of performance-enhancing drugs under medical supervision.

Round2: This House Believes That long-distance relationships can be as successful as relationships where couples live close to each other.

Round3: This House Would make physical education classes (not health education classes) optional in senior high schools.

Round4: This House Believes That the growth of international tourism contributes positively to the conservation of cultural heritage, such as that of Kyoto.

試合結果：チーム順位

- 優勝 聖光学院A
2位 広尾学園高等学校、聖光学院C
4位 渋谷教育学園幕張高等学校A
5位 茨城県立並木中等教育学校B
6位 広尾学園高等学校C

7位 渋谷教育学園渋谷高等学校A

8位 渋谷教育学園幕張高等学校B、市川高等学校C

10位 南山高等学校女子部A、南山高等学校女子部C

【ベストスピーカー賞・経験者】

1位	茨城県立並木中等教育学校	Ryo Matsumoto
	南山高等学校女子部	Lisa Yokoshiro
3位	渋谷教育学園幕張高等学校	Kanegae Seiji
	翔凛高等学校	Kenjie Delos Reyes
5位	広尾学園高等学校	Ryosuke Ebata
	広尾学園高等学校	Yui Shimmyo
	聖光学院	Kantaro Ishida
5位	埼玉県立川越女子高等学校	Yu Kawazoe

【ベストスピーカー賞・初心者】

1位	聖光学院	Ryotaro Shinoda
1位	南山高等学校女子部	Tomoka Okubo
3位	渋谷教育学園渋谷高等学校	Ruriko Sakamoto
3位	筑波大学附属駒場高等学校	Joe Kataoka
5位	広尾学園高等学校	Mei Ishikawa
5位	市川高等学校	Megumi Yokoyama
5位	さいたま市立浦和高等学校	Ayana Ogura

ボランティア：運営委員8名、高校生23名【合計】31名

HPDU役員以外の運営委員：ライ・メルビン、濱野綾音、生沼優奈、白須花音、武政柚香、栗田悠生、川嶋琉那、石川希美、市岡結菜、増川碧、宇高帆乃花、高島菜由、杉山知優、野津桜香、久世真生、白鳥陽大、新藤水桜、日高広実、柏倉あかね、千葉瑠香、横地美優、金子文香、齋藤かのん、中嶋美愛、齊藤清良、狩野花楓、小堀勇人、斉藤沙季、小山風花、下島環奈

(8) 第13回 高校生英語パラメンタリーディベート連盟 新緑杯 西日本大会

HPDU Spring Greenery Competition of West Japan 2024

主催：一般社団法人 日本高校生パラメンタリーディベート連盟 (HPDU of Japan)

後援：公益財団法人 日本英語検定協会、一般社団法人 日本英語交流連盟

特別協賛 有限責任 あずさ監査法人 (KPMG AZSA LLC)

協賛：iae グローバルジャパン株式会社、株式会社トモノカイ

協力：エイムネクスト株式会社

日時：2024年6月16日(日) 8:00~16:30

場所：オンライン Zoom、LINE にて実施

参加費：1チームにつき 3,000 円 (各学校から参加申込チーム数は最大で3チームまで。)

主旨：(1) パラメンタリーディベートを通して高校生の総合的英語運用能力を伸ばす。

(2) 経験者が新人ディベーターを育成する機会の提供。

(3) 様々な社会問題に興味関心を持つ態度を養う。

(4) 高校教員のジャッジ養成。

参加資格：(1) 日本に住所がある高校に在学している1学年から3学年までの生徒(留学生、帰国生徒、外国籍の生徒も含む)。

(2) 第13回新緑杯東日本大会、第5回新芽杯に参加していない学校の生徒。

(3) 1チームにつき1名のジャッジ派遣

試合形式：ノースアメリカン・スタイル [5分、5分、5分、5分、4分、4分] (Constructive speech が5分で、Reply speech が4分)。論題発表から試合開始までの準備時間は20分間。4試合(2試合以降はパワーペアリング)。

チーム構成の条件：

チーム構成の条件：

(1) チームの登録人数は3人。チーム内には必ず新人ディベーターが1人は含まれていること。新人ディベーターとは、1年生またはパラメンタリーディベート公式大会に参加したことがない2、3年生を指します。

(2) 同一校のチームの参加とします。ただし、英会話スクールなど HPDU が認めた高等学校以外の団体は例外とします。

日程：8：00～ 8：15 受付

8：15～ 8：35 開会式

8：35～ 8：45 第1試合 対戦表、論題発表

8：45～10：15 準備(20分間)、試合

10：30～10：40 第2試合 対戦表、論題発表

10：40～12：10 準備(20分間)、試合

12：10～12：40 昼食

12：40～12：50 第3試合 対戦表、論題発表

12：50～14：20 準備(20分間)、試合

14：35～14：45 第4試合 対戦表、論題発表

14：45～16：15 準備(20分間)、試合

16：20～16：30 表彰・閉会式

参加校：9校、16チーム、48名

愛知県 愛知県立半田高等学校

福井県 福井県立藤島高等学校

大阪府 大阪府立北野高等学校

兵庫県 神戸大学附属中等教育学校

岡山県 岡山県立岡山大安寺中等教育学校

徳島県 徳島県立城ノ内中等教育学校

愛媛県 愛媛県立松山西中等教育学校

広島県 ノートルダム清心高等学校

鹿児島県 鹿児島県立鶴丸高等学校

Motions(論題)：

Round 1: THW ban all forms of gambling.

Round 2: THBT animal meat products should be banned.

Round 3: TH supports the rise of language generating AI.

Round 4: This house would pay all elected politicians the median wage in their country.

試合結果：優勝 徳島県立城ノ内中等教育学校

準優勝 福井県立藤島高等学校A

3位 神戸大学附属中等教育学校A

5位 福井県立藤島高等学校C、福井県立藤島高等学校B

ベストスピーカー賞 経験者+新人

1位 徳島県立城ノ内中等教育学校 古川萌々

2位 鹿児島県立鶴丸高等学校A 中嶋駿

3位 大阪府立北野高等学校 岩川陽香

4位 福井県立藤島高等学校C 西村萌那、福井県立藤島高等学校B 橘知里、鹿児島県立鶴丸高等学校C 田實航、愛知県立半田高等学校 張湊南、神戸大学附属中等教育学校A 鈴木葉瑠子

9位 神戸大学附属中等教育学校A 高橋颯介、愛媛県立松山西中等教育学校 宮栄果歩

ベストスピーカー賞 新人

1位 愛知県立半田高等学校 張湊南

2位 神戸大学附属中等教育学校A 高橋颯介、愛媛県立松山西中等教育学校 宮栄果歩

4位 ノートルダム清心B 西本美憂利

5位 福井県立藤島高等学校A 福井万葉

運営役員一覧

【実行委員長(TD)】三仙真也(藤島)

【副実行委員長(VTD)】和泉太輔(城ノ内) 大賀哲(九州大学)

【広報(MD)】橋田信(須崎総合)

【コミュニケーション CD】和泉太輔(城ノ内)

【総務(TC)】三仙真也(藤島) 山田樹生子(岡山大安寺)

【財務(FD)】大賀哲(九州大学)

【タブ(Tab)】泉美穂(神大附属) 三仙真也(藤島)

【審査委員(AC)】木下和生(報徳学園) 古田啓(岡山朝日) 高野里紗(熊本県立教育センター) 松田康子(久留米)

(9) 第5回 高校生英語パラメンタリーディベート連盟 新芽杯

HPDU Sprout Cup 2024

主催：一般社団法人 日本高校生パラメンタリーディベート連盟

後援：公益財団法人 日本英語検定協会、一般社団法人 日本英語交流連盟

協賛：有限責任 あずさ監査法人

協力：iae グローバルジャパン株式会社、株式会社トモノカイ、エイムネクスト株式会社

日時：2024年6月16日(日) 8:30~17:30

場所：オンライン Zoom、SLACK にて実施

参加費：1チームにつき 3,000 円

主旨：(1) 総合的英語運用能力向上に有効であるパラメンタリーディベートのルールや技を学ぶ。

(2) 大会出場経験が少ない高校生たちに対外試合の機会を与える。

(3) 身近な問題や社会の問題について論理的で説得力のあるスピーチを即興でできる力を伸ばす。

(4) 高校教員のジャッジ養成。

試合形式：試合：ノースアメリカンスタイル(4分、4分、4分、4分、3分、3分)

1チーム3名、3試合(2・3試合はパワーペアリング)、準備時間は30分とする。

参加資格：(1) 日本に住所がある高校に在学している1学年から3学年までの生徒(留学生、帰国生徒、外国籍の生徒も含みます)。

(2) 第 13 回新緑杯に参加していない学校の生徒。学校として新緑杯、新芽杯いずれか 1 つの大会に参加して頂くことになります。

(3) 1 チームにつき 1 名のジャッジ派遣

チーム構成の条件：

- (1) チームの人数は 3 ～ 5 名(1 試合に出場するのは 3 人だが、試合ごとに選手入替可能)。ただし、各試合には必ず 1 人以上の新人ディベーターが選手として参加すること。新人ディベーターとは、1 年生、またはパラメンタリーディベートの公式大会に参加したことがない 2、3 年生を指します。
- (2) 同一校のチームの参加とします。ただし、英会話スクールなど HPDU が認めた高等学校以外の団体は例外。

日程：8：30～ 8：45 受付

8：45～ 9：15 開会式

9：15～ 9：25 第 1 試合 対戦表、論題発表

9：25～10：45 準備 (30 分間)、試合

11：10～11：20 第 2 試合 対戦表、論題発表

11：20～12：40 準備 (30 分間)、試合

12：40～13：15 昼食

13：15～13：25 第 3 試合 対戦表、論題発表

13：25～14：45 準備 (30 分間)、試合

15：45～ 表彰・閉会式

参加校：24 校、34 チーム、132 名

愛知県 東海高等学校、愛知県立千種高等学校、愛知県立昭和高等学校、愛知県立旭丘高等学校、大成高等学校

茨城県 東洋大学附属牛久高等学校

大阪府 関西創価高等学校

神奈川県 桐光学園高等学校、カリタス女子高等学校、神奈川県立柏陽高等学校、神奈川県立多摩高等学校、神奈川朝鮮中高級学校

熊本県 真和高等学校

埼玉県 埼玉県立蕨高等学校、さいたま市立大宮国際中等教育学校

静岡県 常葉大学附属橘高等学校、静岡県立清水東高等学校、藤枝明誠高等学校

千葉県 千葉県立松戸国際高等学校

東京都 品川女子学院高等部、慶應義塾女子高等学校

徳島県 徳島県立徳島北高等学校

山梨県 甲府西高等学校

山形県 山形県立東桜学館中学校・高等学校

Motions(論題)：

Round 1: This House Believes That it's more enjoyable to watch a movie with friends at someone's house than at a movie theater with friends.

「本院は、友達と映画を映画館で見るよりも誰かの家で見るほうがより楽しいと信じる」

Round 2: This House Believes That underaged individuals should not become YouTubers.

「本院は、未成年者はユーチューバーになるべきではないと信じる」

Round 3: This House Believes That love is more important than money for a good marriage.

「本院は、良い結婚にとってお金よりも愛が重要だと信じる」

試合結果：優勝：カリタス女子高等学校 A 準優勝：神奈川県立柏陽高等学校 A

3 位：埼玉県立蕨高等学校 A 4 位カリタス女子高等学校 B

5 位：千葉県立松戸国際高等学校 A 6 位：神奈川朝鮮中高級学校

7 位：神奈川県立多摩高等学校

ボランティア：運営委員 9 名、教員 1 名【合計】 10 名

HPDU 役員以外の運営委員：葛谷紗永、菅野治子、菅野紘子、田淵さつき、二井春香、三輪陽乃 他 3 名

(10) 第 13 回 高校生英語パラメンタリーディベート連盟 新緑杯 全国大会

HPDU Spring Greenery Competition Championship 2024

主催：一般社団法人 日本高校生パラメンタリーディベート連盟

後援：公益財団法人 日本英語検定協会、一般社団法人 日本英語交流連盟

協賛：有限責任 あずさ監査法人

協力：iae グローバルジャパン株式会社、株式会社トモノカイ、エイムネクスト株式会社

日時：2024 年 6 月 22 日（土）13：30～17：00

場所：オンライン Zoom、LINE にて実施

主旨：（1）パラメンタリーディベートを通して高校生の総合的英語運用能力を伸ばす。

（2）経験者が新人ディベーターを育成する機会の提供。

（3）様々な社会問題に興味関心を持つ態度を養う。

参加校：新緑杯東日本大会および西日本大会で上位 2 チームに入ったチーム

チーム構成：（1）1 チームの登録人数は 3 人で、1 校につき 3 チームまで登録が可能。各チーム 内には必ず新人ディベーターが 1 人は含まれていることが必要。新人ディベーターとは、1 年生、またはパラメンタリーディベートの公式大会（＝要項が 存在し、複数の高校が参加でき、賞の授与がある大会）に参加したことがない 2、3 年生を指す。（2）同一校の生徒でのチーム参加。

試合形式：ノースアメリカンスタイル、1 チーム 3 名、準備時間は 20 分、4 試合

日程：

13：30～13：45 受付・開会式

13：45～15：15 準決勝 論題発表、準備（20 分間）、試合

15：15～15：30 準決勝 結果発表

15：30～17：00 決勝、3 位決定戦 論題発表、準備（20 分間）、試合

17：00～17：30 表彰式・閉会式

Motions(論題)：

準決勝：

This House believes that media should not broadcast bloody sports..

決勝・3 位決定戦：

This House Would require politicians to disclose their health records to the public.

試合結果：第 1 位 聖光学院、第 2 位 徳島県立城ノ内中等教育学校、第 3 位 福井県立藤島高等学校、
第 4 位 広尾学園

招待ジャッジ：渡辺智之、綾部功、大賀哲、小林遼生、三木一優、頼文仙

理事・役員によるディベート普及活動

北原理事長

- ・2024年2月27日 文部科学省委託調査「WWL コンソーシアム構築支援事業における EBPM に向けたデータ収集・分析、効果検証等のための調査研究」成果報告会にて実践発表
- ・2024年6月25日 徳島新聞社による取材 新緑杯全国大会について
- ・2024年6月28日 令和5年度WWL・SGHN連携協議会にて実践発表

小林理事

- ・2023年11月6日 横浜国立大学・教育学部授業「英語科教育法Ⅱ」内にて、講師として英語ディベートの指導実演
- ・2024年1月11日 東京学芸大学・教職大学院授業「英語科の実践演習Ⅱ」にて、講師として英語ディベートの指導実演
- ・2024年3月16日「第10回ディベート教育国際研究会大会」にて英語ディベート関連の口頭発表

浜野理事

- ・2023年8月17日 第22回関東地区高等学校英語教育研究協議会 分科会講師
- ・2023年9月16日 ESUJ 教員研修ディベートワークショップ 講師
- ・2023年10月1日 市報さいたま（浦和区版）10月1日号 世界大会報告 表紙・記事掲載
- ・2023年2月6日 令和5年度高英研授業研究大会 ディベート実践発表
- ・2024年3月30日 ESUJ 教員研修ディベートワークショップ 講師
- ・2024年6月26日 内田洋行「教育コミュニティサイト 学びの場 Com 教育実践取材」記事掲載
- ・2024年6月～7月 横浜国立大学教育学部大学院 非常勤講師

須田理事

- ・2023年8月26～27日 中高生向けの大会「Tsukukoma Schools Open 2023」（主催：筑駒語学部・共催：Tokyo Debate Academy 他）をオンライン開催

河野理事

- ・2023年7月9日 栃木県 教員研修（講師）
- ・2023年7月9日 栃木県生徒向けワークショップ（講師）
- ・2023年7月15日 ECC 東京地区 ワークショップ（講師）
- ・2023年7月30日 新緑杯 全国大会（運営）
- ・2023年7月9日 長崎県 教員研修（講師）
- ・2023年8月6日 新潟県 教員研修（講師）
- ・2023年8月6日 新潟県 生徒向けワークショップ（講師）
- ・2023年8月19日 Debate for Japan（英語ディベートワークショップ：運営）
- ・2023年8月20日 岩手県 生徒向けワークショップ（講師）
- ・2023年8月21日 岩手県 教員研修（講師）
- ・2023年8月24日 兵庫県 教員研修（講師）
- ・2023年8月21日 野矢茂樹さんとの対談（パネリスト）
- ・2023年9月30日 千葉県 教員勉強会（講師）
- ・2023年10月9日 社会人英語ディベート練習会（運営）
- ・2023年11月23日 社会人英語ディベート練習会（運営）
- ・2024年1月11日 横浜国立大学出張授業（講師）
- ・2024年1月14日 愛知県 生徒向けワークショップ（講師）
- ・2024年1月15日 岩手県 生徒向けワークショップ（講師）
- ・2024年1月21日 岩手県 HPDU 県大会（チーフジャッジ）
- ・2024年1月28日 愛知県 HPDU 県大会（チーフジャッジ）

- ・2024年2月10日 神奈川県 HPDU 県大会（トーナメントディレクター）
- ・2024年2月11日 徳島県 HPDU 県大会（チーフジャッジ）
- ・2024年2月12日 社会人英語ディベート練習会（運営）
- ・2024年2月12日 群馬県立四ツ葉高等学校出張授業（講師）
- ・2024年3月28日 茨城県 教員研修（講師）
- ・2024年5月3日 WSDC Team Japan 公開練習会（運営）
- ・2024年5月26日 愛知県 生徒向けワークショップ（講師）
- ・2024年5月31日 千葉県 教員研修（講師）
- ・2024年6月9日 社会人英語ディベート練習会（運営）
- ・2024年6月23日 JPDU 特別企画 Bo Seo 来日記念公演会（対談）
- ・2024年7月6日 旺文社・朝日出版社 英語教育ワークショップ（ファシリテーター）
- ・2024年7月12日 北海道 教員研修（講師）

その他：

- ・WSDC Team Japan ヘッドコーチ
- ・ECC HT 向けワークショップ講師
- ・競技向け社会人英語ディベート定期練習会（運営）
- ・著書『思考力・発想力を鍛えるための Logical English Reading』（三省堂）Vol.1 重版
- ・著書『思考力・発想力を鍛えるための Logical English Reading』（三省堂）Vol.2 重版
- ・著書『思考力・発想力を鍛えるための Logical English Reading』（三省堂）Vol.3 重版

小野チーフコーチ

- ・2024年2月28日 HPDU 東京都大会 審査員
- ・2024年3月4日 オンライン練習会開催
- ・2024年3月18日 オンライン練習会開催
- ・2024年3月22～24日 HPDU 全国大会審査委員長、モデルディベート企画、レクチャー実施
- ・2024年4月4日 ブリティッシュカウンセルでのディベートレクチャー（29名参加、Tazaki 財団のプログラムで2024年秋に渡英を目指している候補の生徒が対象。）
- ・2024年11月1日 ESUJ 練習会ジャッジ

加藤四国・九州代表

- ・2023年12月1日 著書 即興型ディベートの教科書 Amazon セールス営業部門1位
- ・2024年4月1日 ディベート教育国際研究会 即興型ディベート研究担当 就任
- ・2024年5月1日 Kyushu Debate Open アドバイザー就任
- ・2024年5月20日 Kyushu Debate Exchange 開催(アドバイザー) — (2024年7月6日 高校生英語プレゼンテーション GEM Talks 教材監修、講師)

2025 年度HPDU役員

理事長	北原隆志（渋谷教育学園渋谷中学高等学校教諭）
事務局長	古賀記洋子（日本大学第一高等学校教諭）
理事	小林良裕（豊島岡女子学園中学高等学校教諭、東京学芸大学大学院 連合学校教育学研究科 博士課程在籍） 前田和（埼玉県立久喜北陽高等学校教諭） 浜野清澄（さいたま市立浦和高等学校教諭） 西崎真広（明星中学校・高等学校教諭） 天海揚介（OBOG 代表） 須田智之（筑波大学附属駒場中・高等学校教諭） 大関朝美（富士見中学校高等学校教諭） 河野周（聖光学院中学・高等学校教諭）
監事	小野暢思（合同会社 Tokyo Debate Academy 代表）
名誉顧問	明石 康（公益財団法人 国立京都国際会館理事長、元国連事務次長、元公益財団法人 国立京都国際会館 理事長、元国連事務次長） 沼田貞昭（一般社団法人 日本英語交流連盟名誉会長、元駐カナダ大使）
顧問	加藤一郎（千葉大学客員教授、元全農代表理事専務） 新庄一郎（弁護士、元検察庁検事正） 酒井弘行（公認会計士、元KPMG ジャパン日本代表、元あずさ監査法人理事長） 下野雅承（元日本 IBM 社長） 讃井暢子（元一般社団法人 日本経済団体連合会常務理事） 油井直次（元公益財団法人 日本英語検定協会会長） 河端政夫（学校法人国際基督教大学監事、ブレインウッズ株式会社顧問）
大会主顧問	岡田真樹子（一般社団法人 日本英語交流連盟常務理事、元山梨英和大学 人間文化学部人間文化学科 教授）
大会特別顧問	綾部 功（東海大学 文学部英語文化コミュニケーション学科 教授） 中川智皓（大阪府立大学 工学研究科 機械工学分野 准教授）
西日本代表	西山哲郎（静岡聖光学院中学校・高等学校校長補佐）
四国・九州代表	加藤 彰（九州大学 非常勤講師/学術研究者）
チーフコーチ	小野暢思（合同会社 Tokyo Debate Academy 代表）※ディベート大会優勝歴 35 回、ベストスピーカー受賞歴 27 回。